

第2章 共通質問の比較等

本章では、「認定者」、「第1号」、「ミドル・シニア」の調査で同じ質問についての結果を抜粋し、比較するとともに、本調査で主要な質問についての結果を掲載しています。

本章における圏域別のクロス集計は、「認定者」、「第1号」、「ミドル・シニア」の全ての調査を合計して圏域別に集計したものであり、「調査全体」と表記しています。

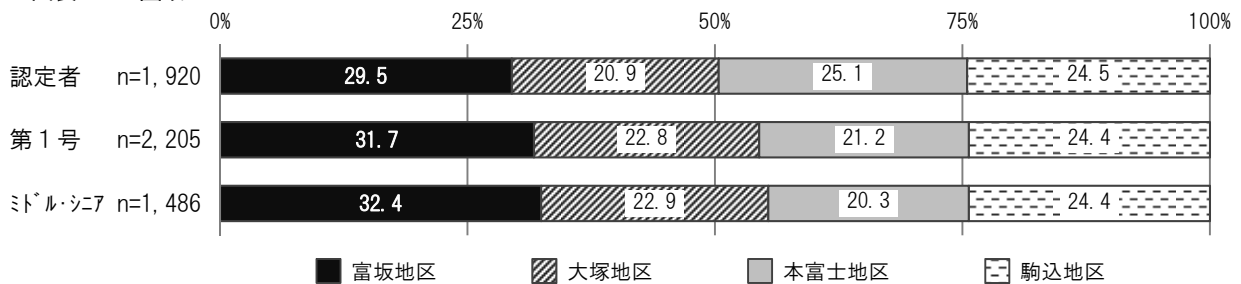
本章において掲載されている「認定者」調査の結果は第5章に、「第1号」調査の結果は第3章に、「ミドル・シニア」調査の結果は第4章にそれぞれ再掲しています。

1 回答者の属性

(1) 圏域〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

圏域ごとの対象者の分布は、実際の人口割合とほぼ同様となっています。

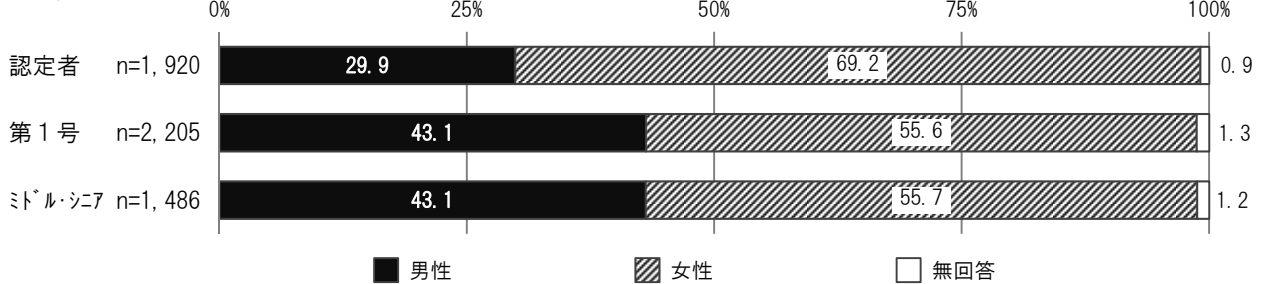
図表 2.1 圏域



(2) 性別〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

性別は、いずれの対象者も「女性」の割合が高く、「認定者」は「女性」が69.2%、「第1号」、「ミドル・シニア」は「女性」が約56%となっています。

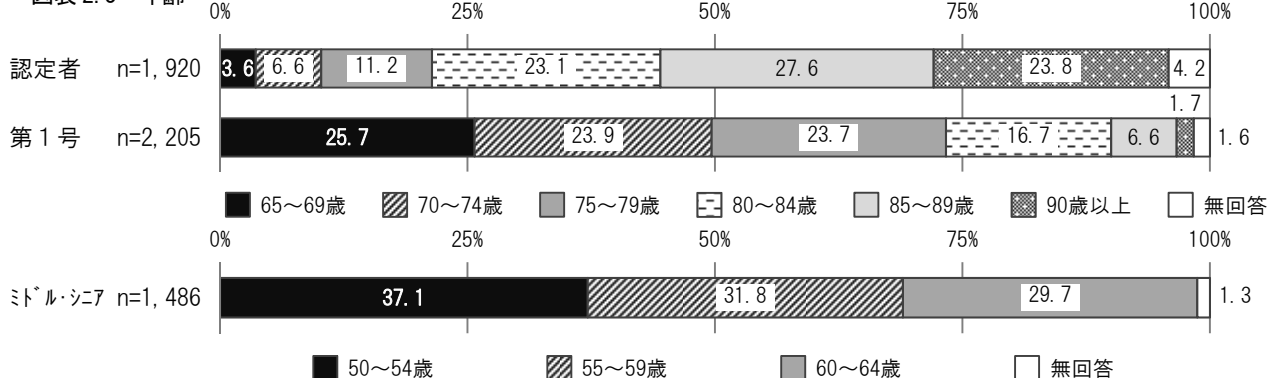
図表 2.2 性別



(3) 年齢〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

年齢は、「75歳以上（後期高齢者）」の割合は、「認定者」は85.7%となっていますが、「第1号」は48.7%となっています。
 「ミドル・シニア」は「50～54歳」が37.1%、「55～59歳」が31.8%、「60～64歳」が29.7%となっています。

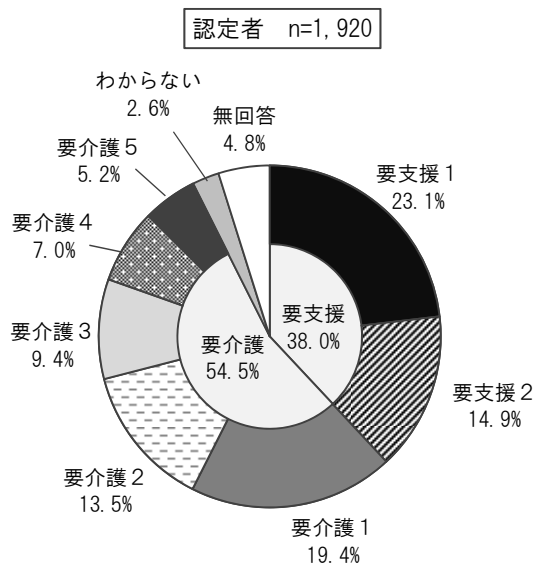
図表 2.3 年齢



(4) 要支援・要介護度〔認定者〕

〔認定者〕の要支援・要介護度は、「要支援1」、「要支援2」を合わせた割合は38.0%、「要介護1」から「要介護5」を合わせた割合は54.5%となっています。

図表 2.4 要支援・要介護度



(5) 世帯構成〔認定者、第1号〕

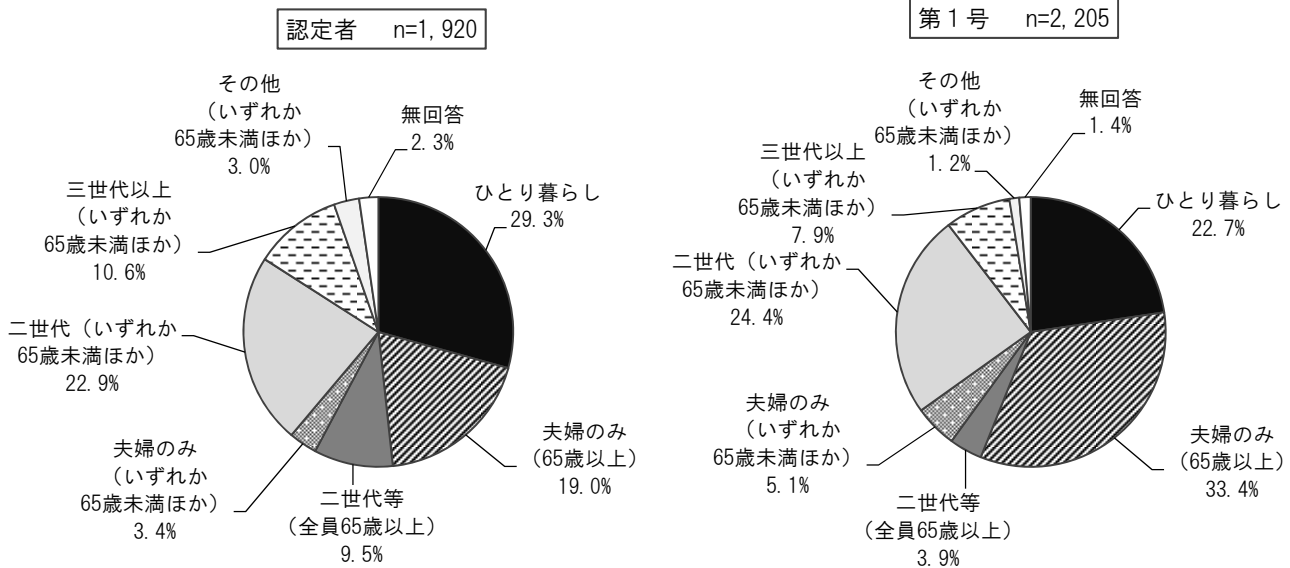
「ひとり暮らし」の割合は、〔認定者〕が29.3%、〔第1号〕が22.7%となっています。また、全員65歳以上の「高齢者のみ」世帯の割合は、〔認定者〕が57.8%、〔第1号〕が60.0%となっています。

図表 2.5 世帯構成 (小分類)

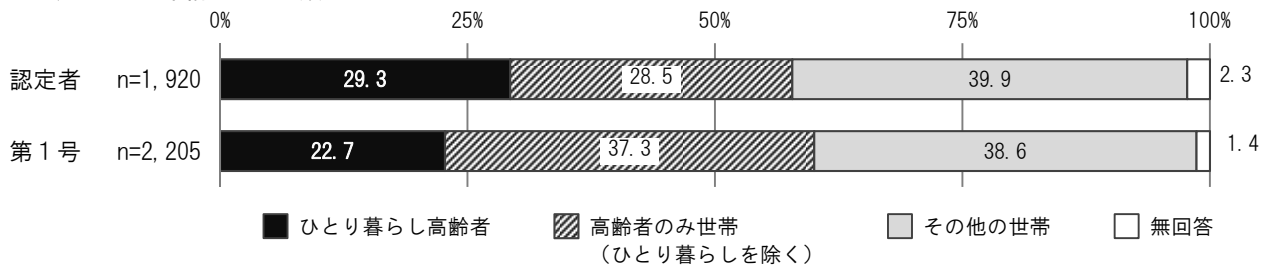
	世帯構成		認定者		第1号	
			人数	%	人数	%
1	ひとり暮らし	65歳以上	563	29.3	500	22.7
2	夫婦のみ	全員65歳以上	364	19.0	736	33.4
3		いずれか65歳未満	26	1.4	58	2.6
4		年齢不明	39	2.0	55	2.5
5	子どもと二世帯同居	全員65歳以上	120	6.3	26	1.2
6		いずれか65歳未満	406	21.1	508	23.0
7		年齢不明	28	1.5	30	1.4
8	親と二世帯同居	全員65歳以上	5	0.3	19	0.9
9		いずれか65歳未満	4	0.2	1	0.0
10		年齢不明	2	0.1	0	0.0
11	三世帯以上同居	全員65歳以上	4	0.2	4	0.2
12		いずれか65歳未満	192	10.0	165	7.5
13		年齢不明	12	0.6	9	0.4
14	その他	全員65歳以上	53	2.8	38	1.7
15		いずれか65歳未満	32	1.7	23	1.0
16		年齢不明	26	1.4	3	0.1
	無回答		44	2.3	30	1.4
	全体		1,920	100.0	2,205	100.0

※全員65歳以上の世帯を網掛けしています。

図表 2.6 世帯構成 (中分類)



図表 2.7 世帯構成 (大分類)



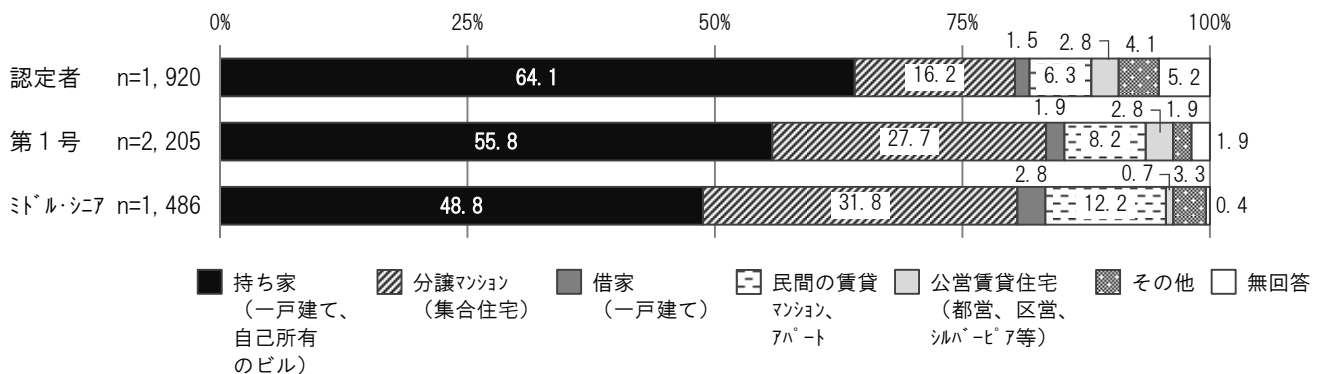
2 住まいについて

(1) 住居形態〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住居形態は、いずれの対象者も「持ち家」が最も多くなっています。いずれの対象者も「持ち家」と「分譲マンション」を合わせると80%を超えています。

圏域別にみると、「持ち家」の割合は、「駒込地区」が62.3%で最も高くなっています。

図表 2.8 住居形態



図表 2.9 住居形態/圏域別

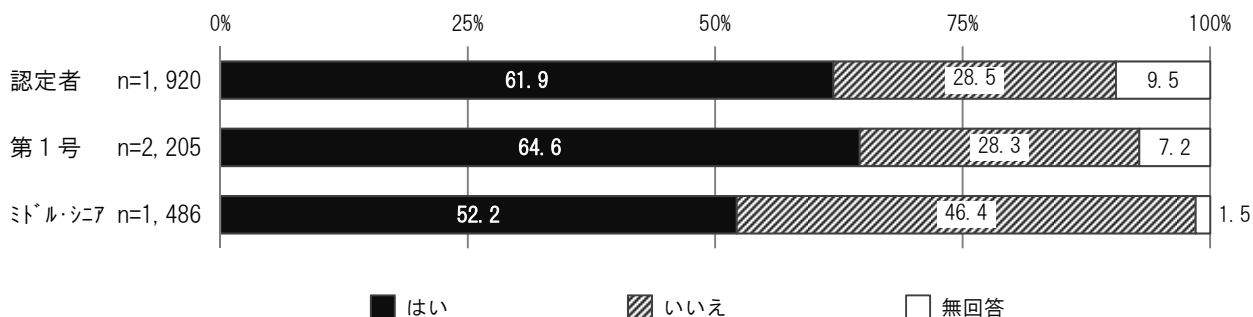
単位：%

項目	回答者数(人)	持ち家(一戸建て 自己所有のビル)	分譲マンション (集合住宅)	借家(一戸建て)	民間の賃貸マン ション、アパート	公営賃貸住宅(都 営、区営、シルバ ビア等)	その他	無回答	
調査全体	5,611	56.8	24.8	2.0	8.6	2.2	3.0	2.6	
圏域別	富坂 地区	1,747	55.5	27.8	1.7	8.5	1.6	2.5	2.5
	大塚 地区	1,244	54.3	28.2	2.4	8.2	1.1	3.3	2.5
	本富士地区	1,250	55.0	24.8	2.2	7.1	3.8	3.0	4.0
	駒込 地区	1,370	62.3	18.0	1.8	10.4	2.6	3.3	1.6

(2) 現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に、住み続けられる住まいか
〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいかについて、「はい」の割合は、〔認定者〕が61.9%、〔第1号〕が64.6%であるのに比べて、〔ミドル・シニア〕は52.2%となっています。

図表 2.10 今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいか

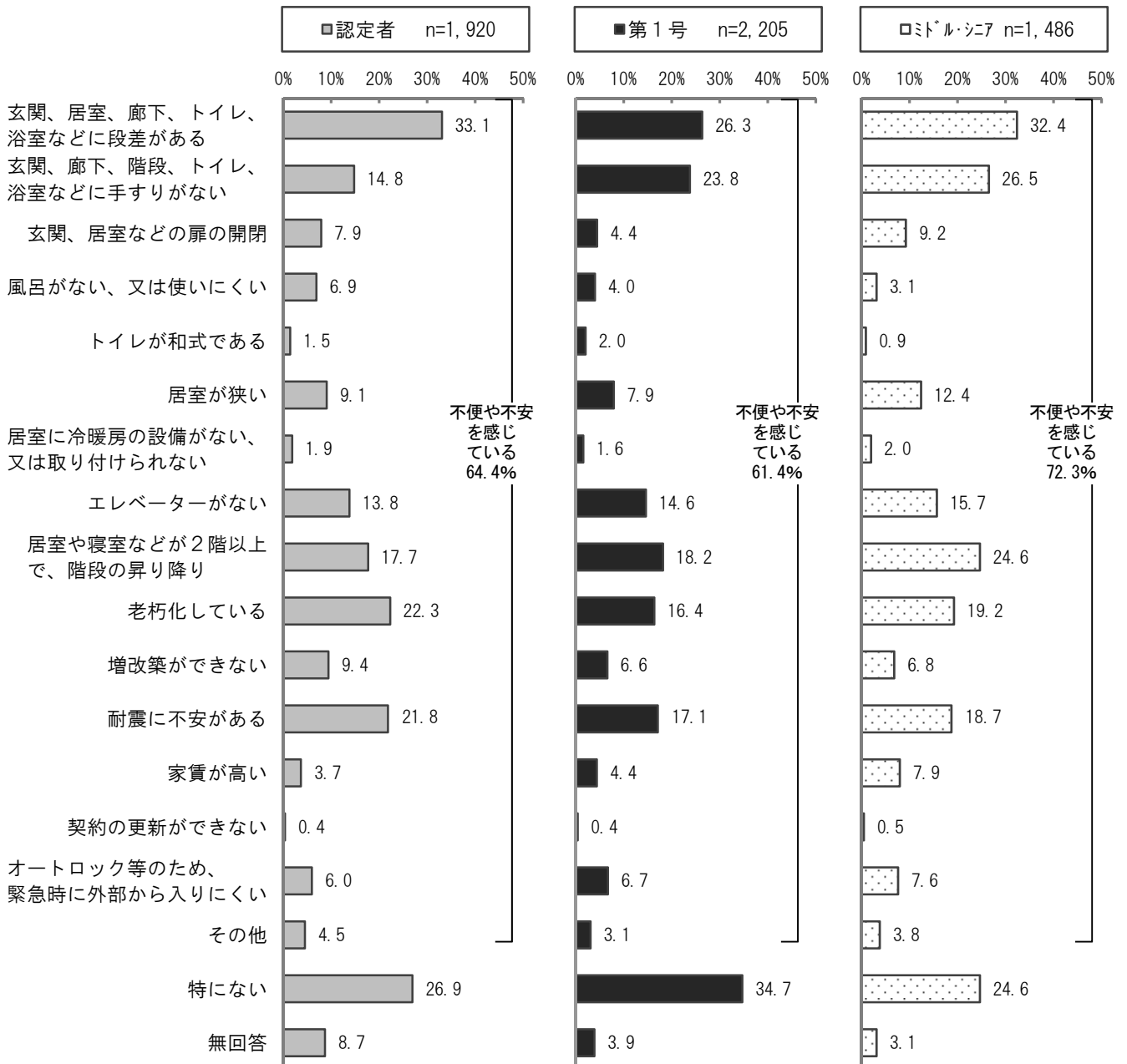


(3) 住まいについて不便や不安を感じていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住まいについて不便や不安を感じていることは、いずれの対象者も「玄関、居室、廊下、トイレ、浴室などに段差がある」が最も高くなっています。〔認定者〕は次いで「老朽化している」が高く、〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は次いで「玄関、廊下、階段、トイレ、浴室などに手すりがない」が高くなっています。

何らかの不便や不安を感じている割合は、〔ミドル・シニア〕が72.3%で最も高く、次いで〔認定者〕が64.4%、〔第1号〕が61.4%となっています。

図表 2.11 住まいについて不便や不安を感じていること（複数回答）



※ 「不便や不安を感じている」 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

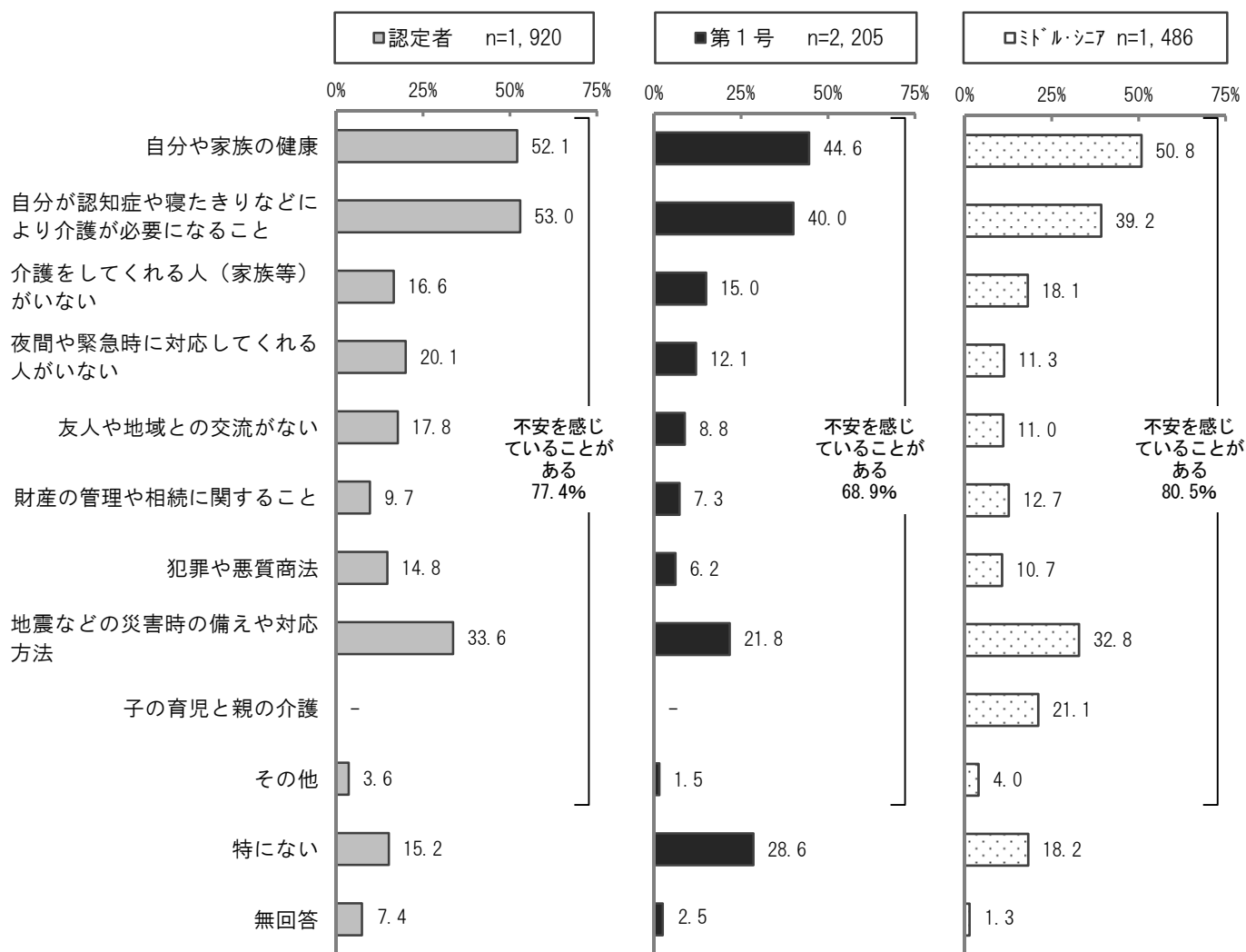
3 日常生活について

(1) 現在の生活上の不安〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

生活上の不安は、いずれの対象者も「自分や家族の健康」、「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」が上位2項目となっています。〔認定者〕は「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」、「自分や家族の健康」がともに50%を超え、〔ミドル・シニア〕は「自分や家族の健康」が最も高く50%を超えています。

不安を感じていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が80.5%で最も高く、次いで〔認定者〕が77.4%、〔第1号〕が68.9%となっています。

図表 2.12 生活上の不安（複数回答）



※「子の育児と親の介護」は〔ミドル・シニア〕のみの選択肢
 ※「不安を感じていることがある」=100%－「特になし」－「無回答」

4 高齢者あんしん相談センターについて

(1) 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度

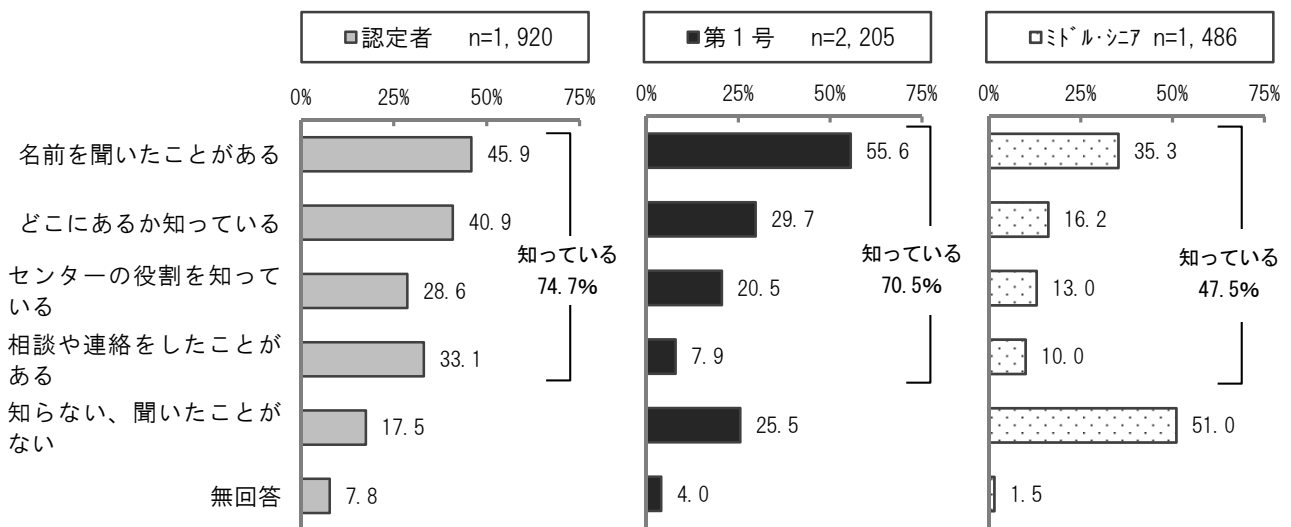
〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

高齢者あんしん相談センターを知っている割合は、〔認定者〕が74.7%で最も高く、次いで〔第1号〕が70.5%、〔ミドル・シニア〕が47.5%となっています。

〔認定者〕、〔第1号〕は、「名前を聞いたことがある」が最も高く、〔認定者〕が45.9%、〔第1号〕が55.6%となっており、次いで「どこにあるか知っている」が高く、〔認定者〕が40.9%、〔第1号〕が29.7%となっています。

一方、〔ミドル・シニア〕は、「知らない、聞いたことがない」が最も高く、50%を超えています。

図表 2.13 高齢者あんしん相談センターの認知度（複数回答）



※「知っている」=100%－「知らない、聞いたことがない」－「無回答」

圏域別にみると、「名前を聞いたことがある」割合は、「本富士地区」が48.1%で最も高くなっています。前回調査（平成25年度）と比較すると、いずれの圏域も各認知度は、10ポイント程度高くなっていますが、「相談や連絡をしたことがある」割合は、大きな変化はみられません。

図表 2.14 高齢者あんしん相談センターの認知度（複数回答）/圏域別 単位：%

項目	回答者数(人)	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答
調査全体	5,611	46.9	29.9	21.3	17.1	29.5	4.6
圏域別							
富坂 地区	1,747	46.5	27.5	22.2	15.7	30.5	5.1
大塚 地区	1,244	45.6	30.5	20.7	17.1	30.7	4.7
本富士地区	1,250	48.1	28.5	20.6	17.1	29.9	3.8
駒込 地区	1,370	47.4	33.9	21.4	18.7	26.9	4.7

図表 2.15 (参考) 平成25年度調査 単位：%

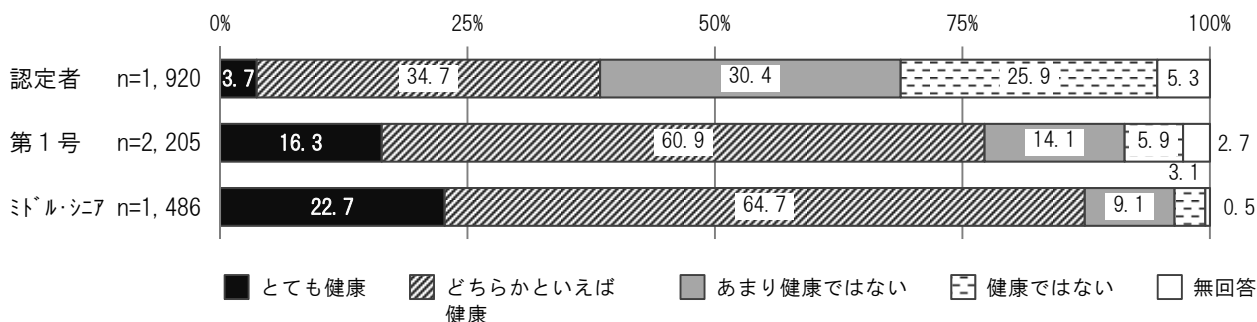
項目	回答者数(人)	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答
調査全体	5,301	36.7	20.0	11.8	16.1	37.6	7.0
圏域別							
富坂 地区	1,685	36.8	17.9	12.3	15.0	38.9	7.6
大塚 地区	1,139	34.9	20.7	11.1	17.5	40.0	6.1
本富士地区	1,173	38.1	17.3	10.8	13.6	38.1	7.1
駒込 地区	1,304	37.0	24.6	12.7	18.4	33.3	7.0

5 健康・介護予防について

(1) 現在の健康状況〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

主観的な健康感は、いずれの対象者も「どちらかといえば健康」と思う割合が最も高く、〔認定者〕が34.7%、〔第1号〕が60.9%、〔ミドル・シニア〕が64.7%となっています。〔認定者〕は次いで「あまり健康ではない」が30.4%、「健康ではない」が25.9%となっています。〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は、次いで「とても健康」と思う割合が高く、〔第1号〕が16.3%、〔ミドル・シニア〕が22.7%となっています。

図表 2.16 主観的な健康感



(2) かかりつけ医・歯科医・薬局の有無〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

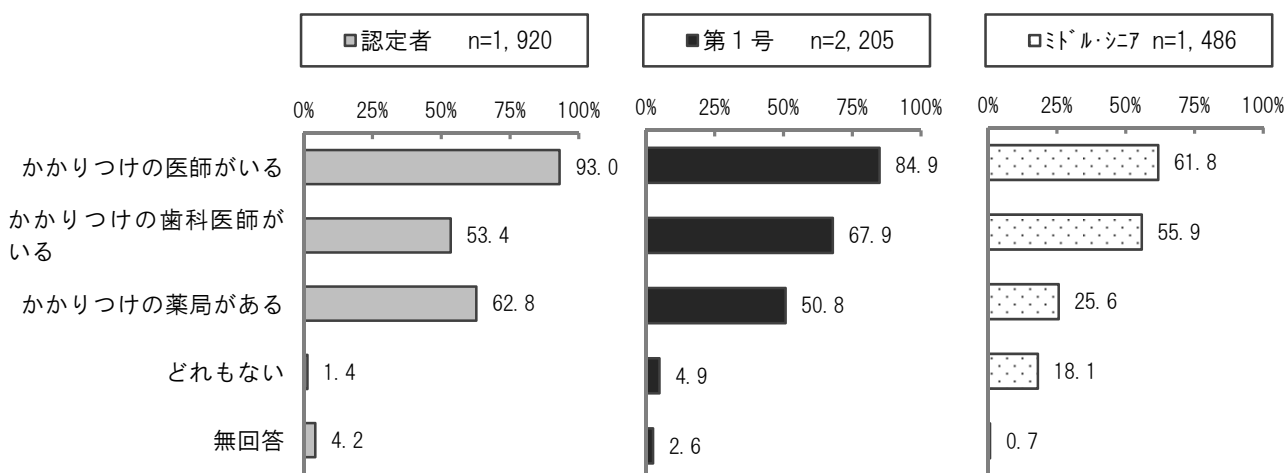
かかりつけ医等の有無は、「かかりつけの医師がいる」は、〔認定者〕が93.0%、〔第1号〕が84.9%であるのに比べて、〔ミドル・シニア〕は61.8%となっています。

「かかりつけの歯科医師がいる」は、〔認定者〕が53.4%、〔第1号〕が67.9%、〔ミドル・シニア〕が55.9%となっています。

「かかりつけの薬局がある」は、〔認定者〕が62.8%、〔第1号〕が50.8%であるのに比べて、〔ミドル・シニア〕は25.6%と低くなっています。

また、〔ミドル・シニア〕は「どれもない」が18.1%となっており、他の対象者より高くなっています。

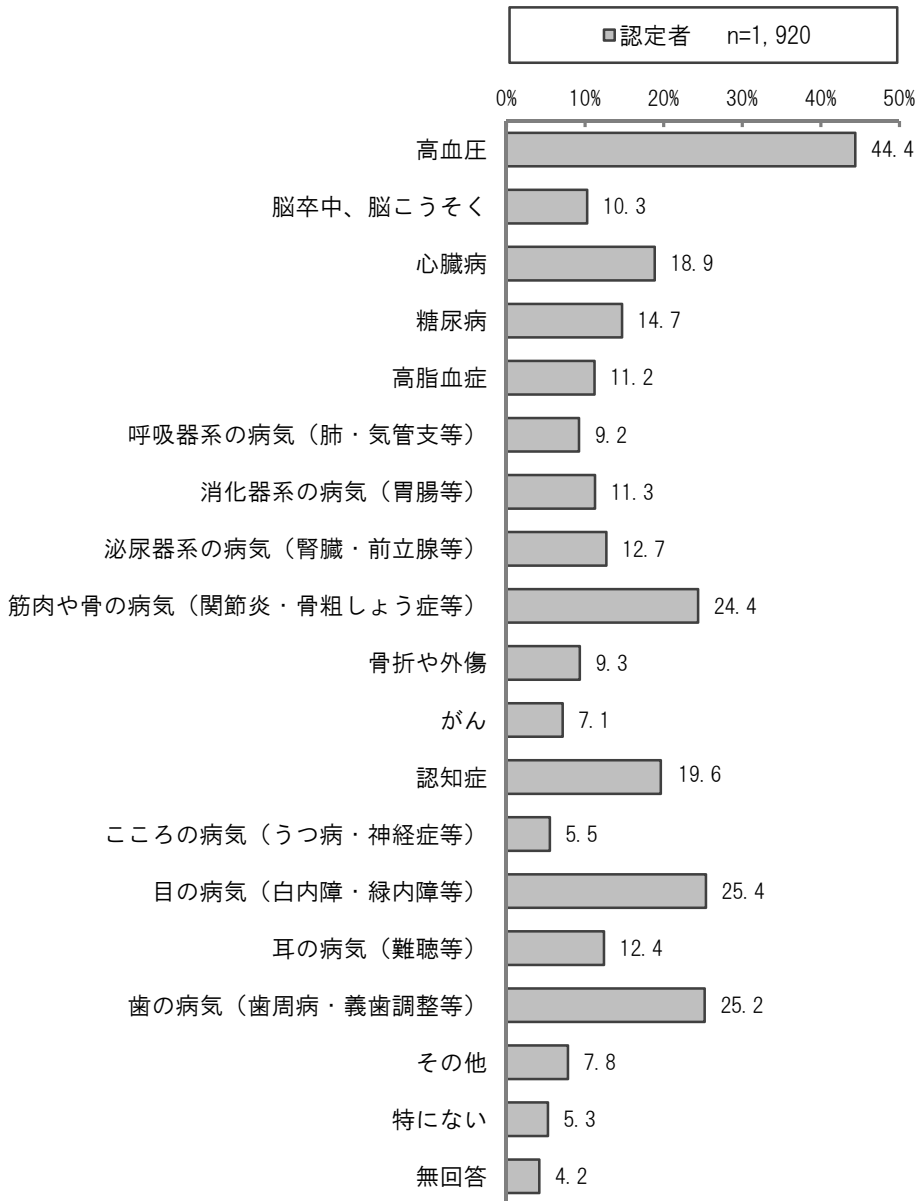
図表 2.17 かかりつけ医等の有無（複数回答）



(3) 現在治療中の病気〔認定者〕

〔認定者〕の現在治療中の病気は、「高血圧」が44.4%で最も高く、次いで「目の病気」が25.4%、「歯の病気」が25.2%となっています。

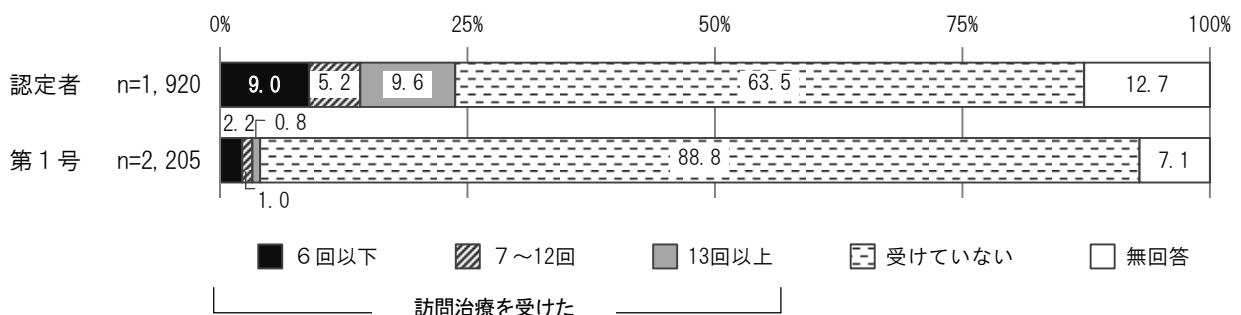
図表 2.18 現在治療中の病気（複数回答）



(4) 1年間に訪問治療を受けた回数〔認定者、第1号〕

1年間に訪問による治療（往診）を受けた割合は、〔認定者〕が23.8%、〔第1号〕が4.0%となっています。〔認定者〕では「13回以上」が9.6%、「6回以下」が9.0%となっています。

図表 2.19 1年間に訪問治療を受けた回数



(5) 健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいること

〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいることがある割合は、〔第1号〕が91.1%で最も高く、〔ミドル・シニア〕が88.2%、〔認定者〕が73.0%となっています。

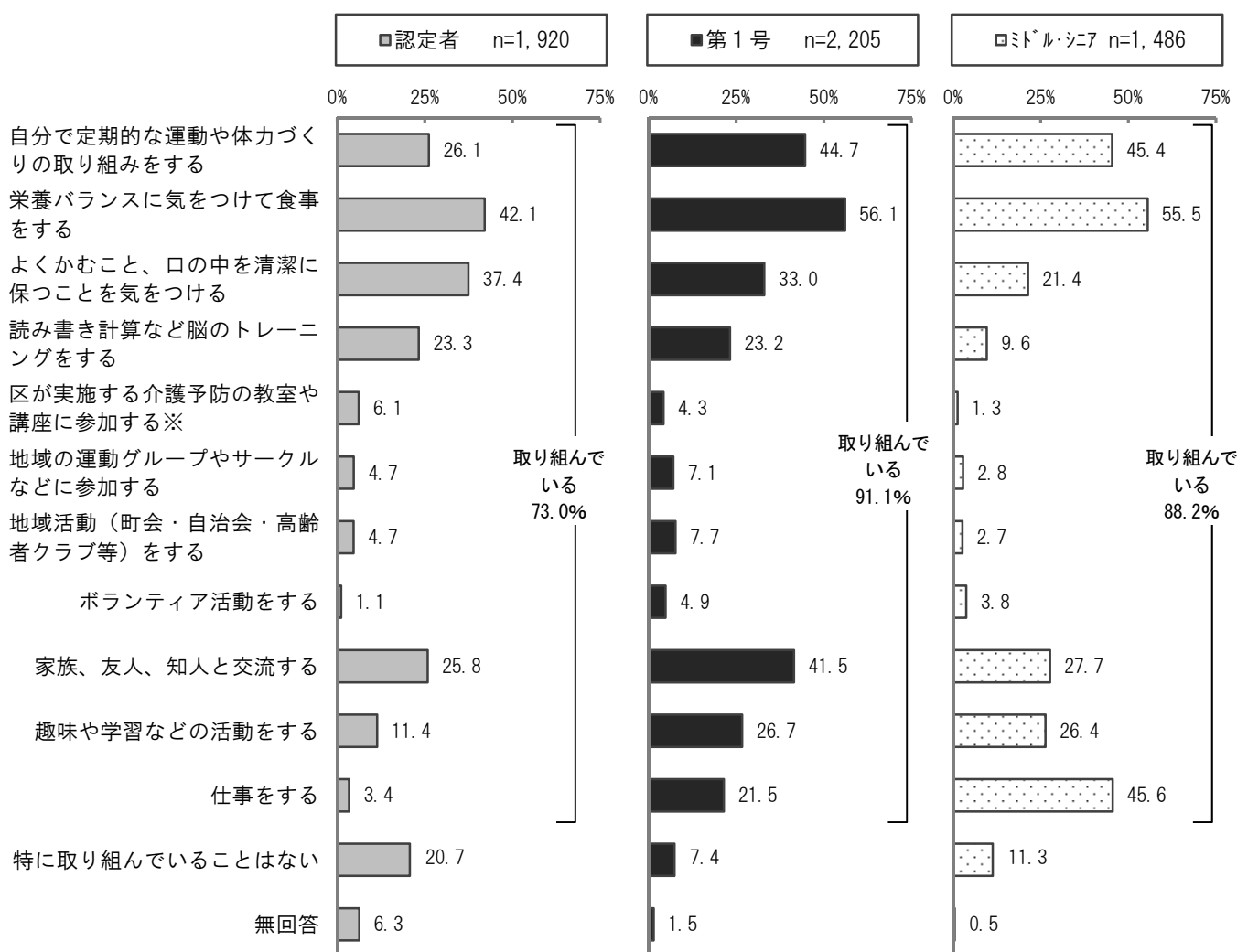
いずれの対象者も「栄養バランスに気をつけて食事をする」が最も高く、〔認定者〕が42.1%、〔第1号〕が56.1%、〔ミドル・シニア〕が55.5%となっています。

〔認定者〕は、次いで「よくかむこと、口の中を清潔に保つことを気をつける」が37.4%、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が26.1%となっています。

〔第1号〕は、次いで「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が44.7%、「家族、友人、知人と交流する」が41.5%となっています。

〔ミドル・シニア〕は、次いで「仕事をする」が45.6%、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が45.4%となっています。

図表 2.20 健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいること（3つ以内複数回答）



※ミドル・シニアは「区が実施する健康づくりの教室や講座に参加する」

※「取り組んでいる」=100%－「特に取り組んでいることはない」－「無回答」

6 認知症について

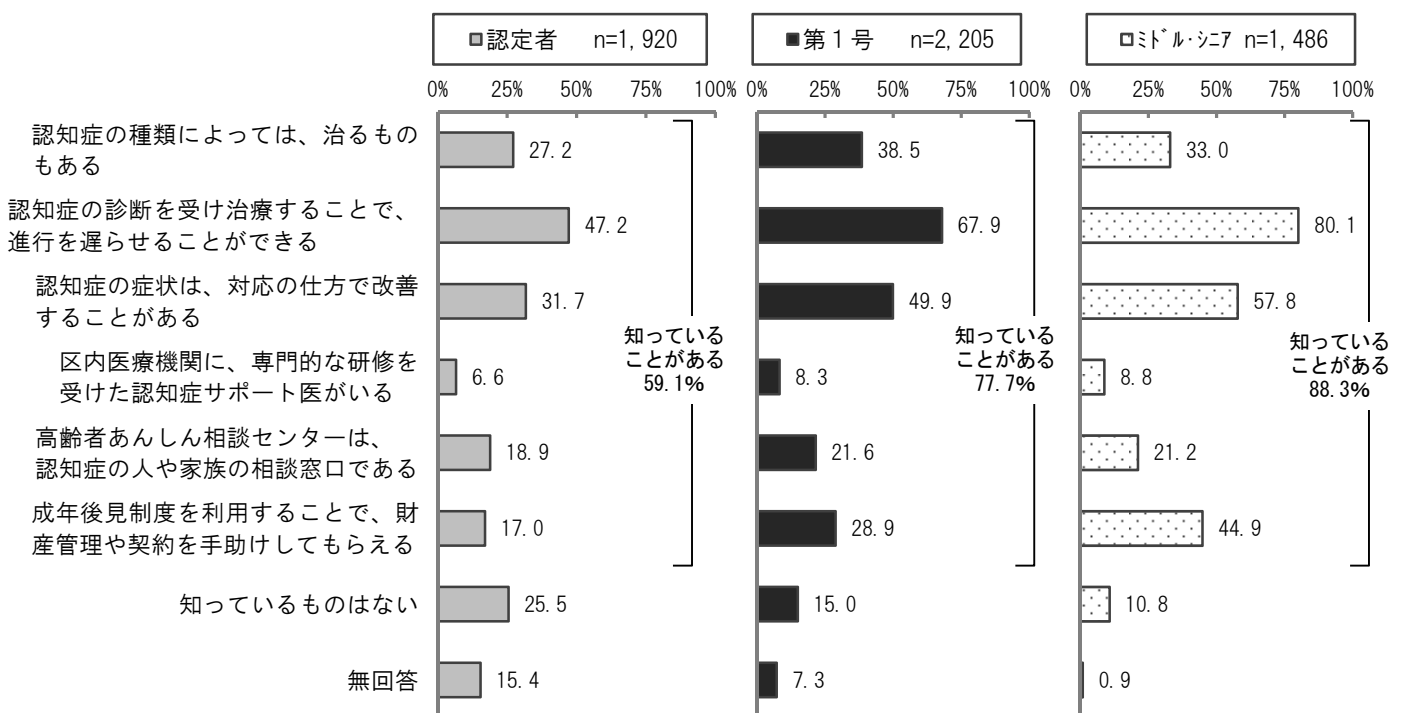
(1) 認知症のケアや支援制度について知っていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

認知症のケアや支援制度について知っていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が88.3%で最も高く、次いで〔第1号〕が77.7%、〔認定者〕が59.1%となっています。

いずれの対象者も「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」が最も高く、〔認定者〕が47.2%、〔第1号〕が67.9%、〔ミドル・シニア〕が80.1%となっており、次いで「認知症の症状は、対応の仕方改善することがある」が高く、〔認定者〕が31.7%、〔第1号〕が49.9%、〔ミドル・シニア〕が57.8%となっています。

3番目に高いのは、〔認定者〕、〔第1号〕は「認知症の種類によっては、治るものもある」が〔認定者〕が27.2%、〔第1号〕が38.5%となっており、〔ミドル・シニア〕は「成年後見制度を利用することで、財産管理や契約を手助けしてもらえる」が44.9%となっています。

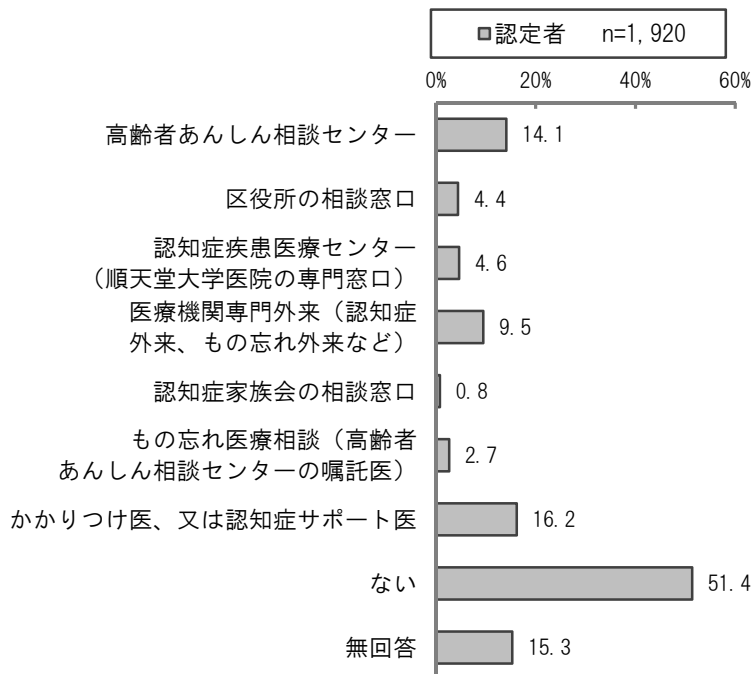
図表 2.21 認知症のケアや支援制度について知っていること（複数回答）



(2) - 1 認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口〔認定者〕

〔認定者〕が認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口については、「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が16.2%、「高齢者あんしん相談センター」が14.1%、「医療機関専門外来」が9.5%となっています。一方、「ない」が51.4%となっています。

図表 2.22 認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口（複数回答）

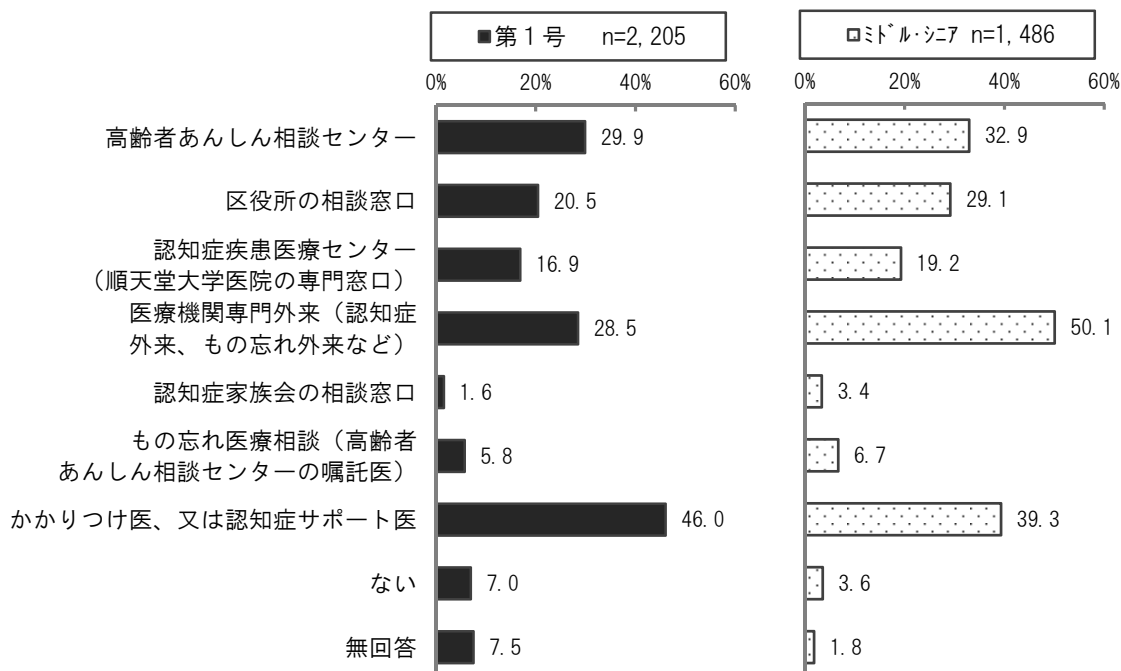


(2) - 2 認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口〔第1号、ミドル・シニア〕

認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口は、〔第1号〕は「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が46.0%で最も高く、次いで「高齢者あんしん相談センター」が29.9%、「医療機関専門外来」が28.5%となっています。

〔ミドル・シニア〕は「医療機関専門外来」が50.1%で最も高く、次いで「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が39.3%、「高齢者あんしん相談センター」が32.9%となっています。

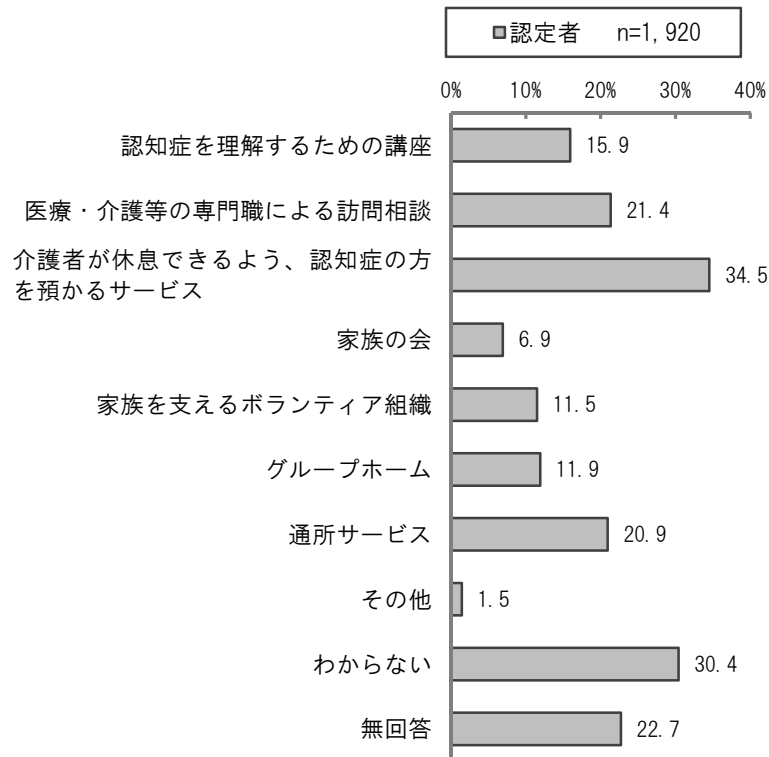
図表 2.23 認知症に関する相談に利用すると思う窓口（複数回答）



(3) 認知症高齢者のいる家族への支援として必要と感じるもの〔認定者〕

〔認定者〕が認知症高齢者のいる家族への支援として必要と感じるものは、「介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス」が34.5%で最も高く、次いで「医療・介護等の専門職による訪問相談」が21.4%、「通所サービス」が20.9%となっています。
一方、「わからない」が30.4%となっています。

図表 2.24 認知症高齢者のいる家族に必要な支援（複数回答）



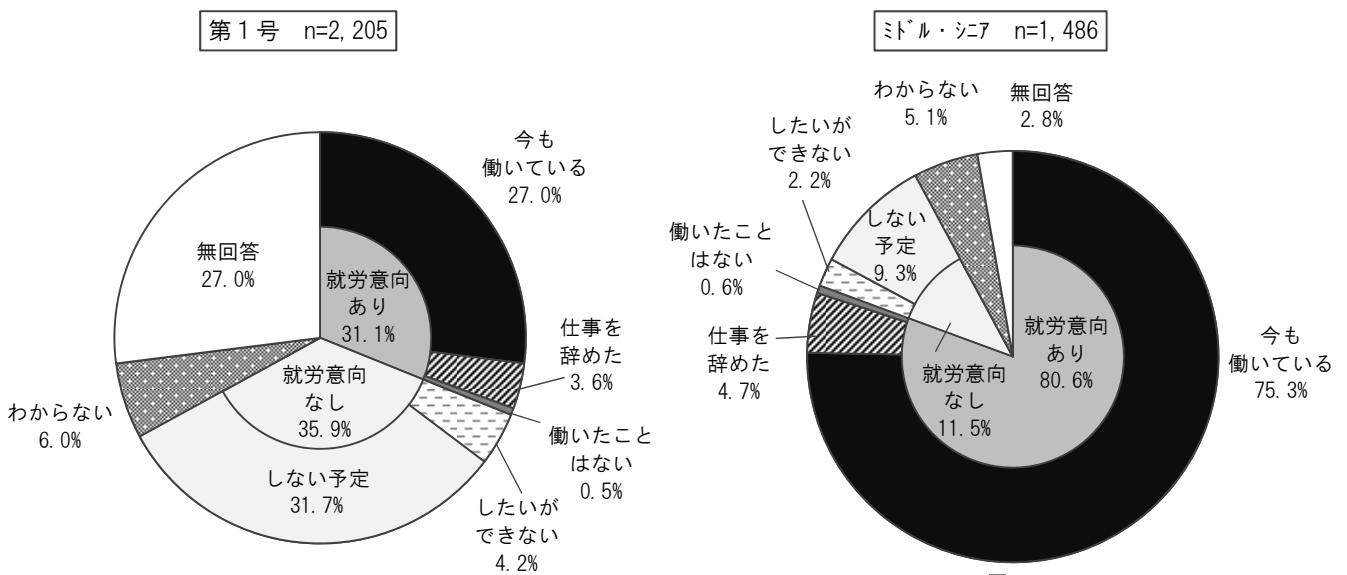
7 就業について

(1) 現在の就労状況と今後の就労意向〔第1号、ミドル・シニア〕

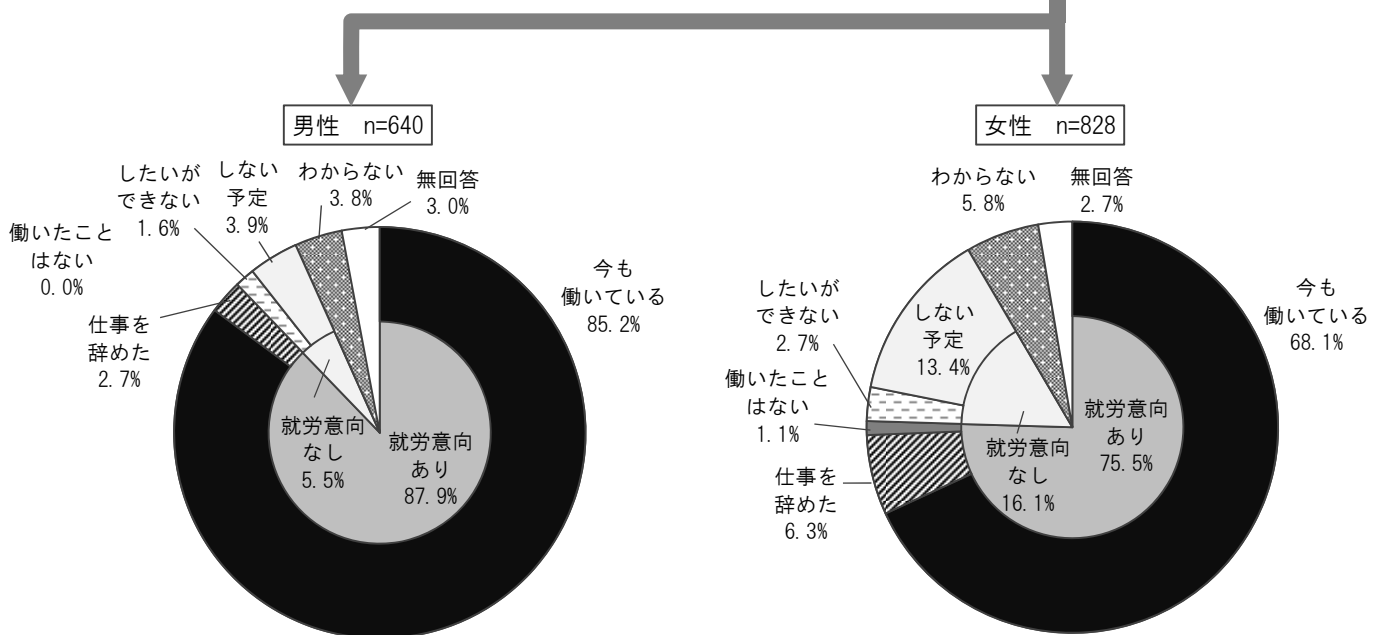
現在の就労状況は、「今も働いている」割合は、〔第1号〕が27.0%であるのに比べて、〔ミドル・シニア〕では75.3%となっています。〔第1号〕は、今後の就労意向のある割合が31.1%、就労意向のない割合が35.9%となっています。〔ミドル・シニア〕は、今後の就労意向のある割合が80.6%、就労意向のない割合が11.5%となっています。

〔ミドル・シニア〕を性別にみると、「今も働いている」割合は、「男性」が85.2%、「女性」が68.1%となっており、今後の就労意向のある割合は、「男性」が87.9%、「女性」が75.5%となっています。また、性別・年齢別にみると、就労意向のない割合は、「男性」の「60～64歳」が11.5%、「女性」の「55～59歳」が16.8%、「60～64歳」が27.6%となっており、年齢が上がるほど高くなっています。

図表 2.25 就労状況と就労意向



図表 2.26 就労状況と就労意向〔ミドル・シニア/性別〕



図表 2.27 就労状況と就労意向〔ミドル・シニア〕/性別・年齢別

単位：%

項目	回答者数(人)	就労意向あり			就労意向なし		わからない	無回答	
		今も働いており、今後も何らかの仕事をしたい	今は仕事を辞めたが、今後も何らかの仕事をしたい	働いたことはないが、今後は何らかの仕事をしたい	仕事はしたいができない	仕事はしない予定である			
ミドル・シニア全体	1,486	75.3	4.7	0.6	2.2	9.3	5.1	2.8	
男性	50～54歳	228	92.1	1.3	0.0	0.9	0.0	3.5	2.2
	55～59歳	195	84.1	2.6	0.0	2.1	2.6	4.6	4.1
	60～64歳	209	78.5	4.3	0.0	1.9	9.6	3.3	2.4
女性	50～54歳	316	76.3	5.7	1.3	2.2	4.7	7.9	1.9
	55～59歳	275	70.2	5.1	0.7	3.3	13.5	5.5	1.8
	60～64歳	228	54.8	8.3	1.3	2.6	25.0	3.1	4.8

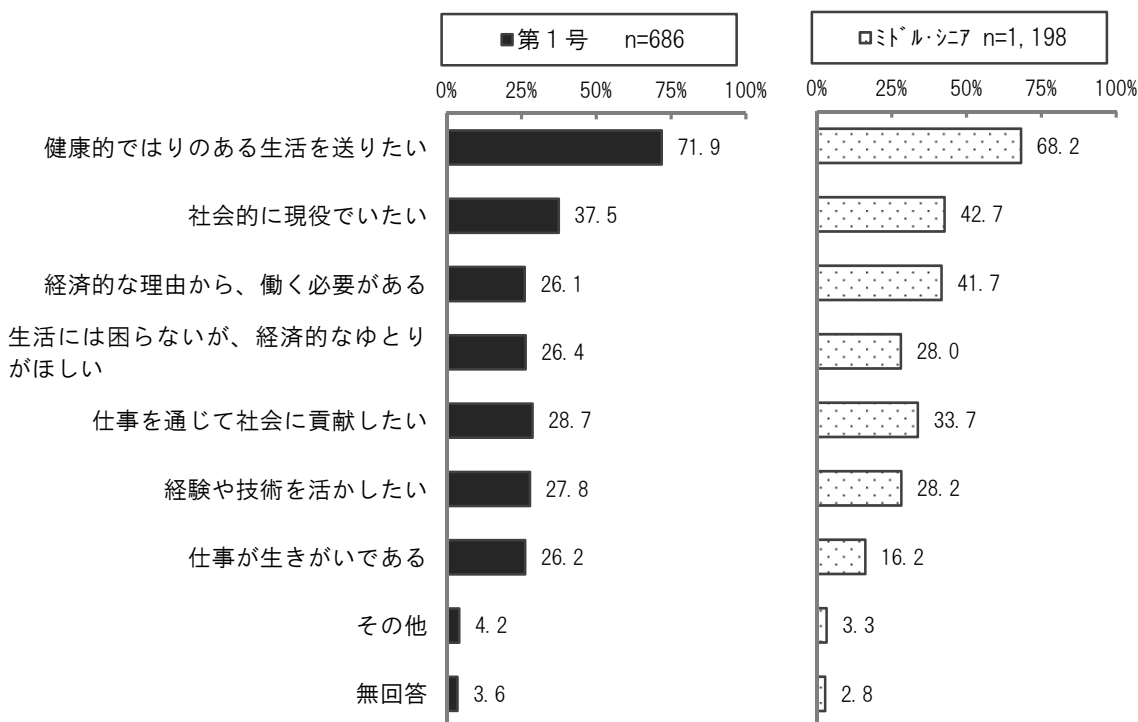
(2) 仕事をしたい(し続けたい)理由〔第1号、ミドル・シニア〕

仕事をしたい(し続けたい)理由は、いずれの対象者も「健康的ではりのある生活を送りたい」が最も高く、〔第1号〕が71.9%、〔ミドル・シニア〕が68.2%となっています。次いで「社会的に現役でいたい」が高く、〔第1号〕が37.5%、〔ミドル・シニア〕が42.7%となっています。

〔第1号〕は次いで「仕事を通じて社会に貢献したい」が28.7%、〔ミドル・シニア〕は次いで「経済的な理由から、働く必要がある」が41.7%となっています。

「経済的な理由から、働く必要がある」は〔ミドル・シニア〕が10ポイント以上高く、「仕事が生きがいである」は〔第1号〕が10ポイント高くなっています。

図表 2.28 仕事をしたい(し続けたい)理由(複数回答)



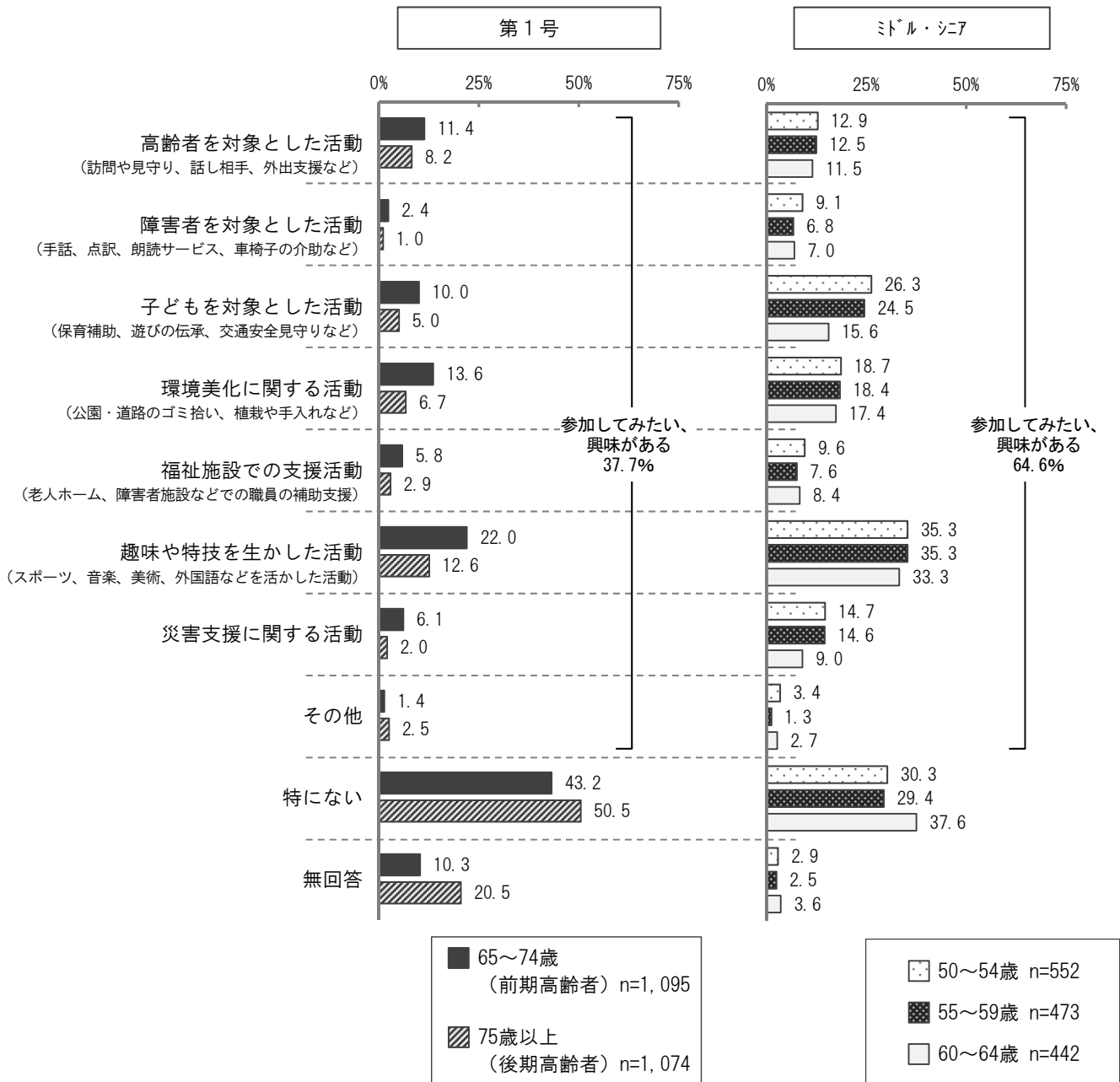
8 地域とのつながり・地域活動について

(1) 参加してみたい、興味があるボランティア活動〔第1号、ミドル・シニア〕

ボランティア活動に参加してみたい、興味がある割合は、〔第1号〕が37.7%、〔ミドル・シニア〕が64.6%となっています。〔ミドル・シニア〕はいずれの活動も〔第1号〕に比べて高くなっています。

年齢区分別にみると、〔ミドル・シニア〕の「50～54歳」、「55～59歳」では、「子どもを対象とした活動」の割合が〔第1号〕に比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 2.29 参加してみたい、興味があるボランティア活動（複数回答）



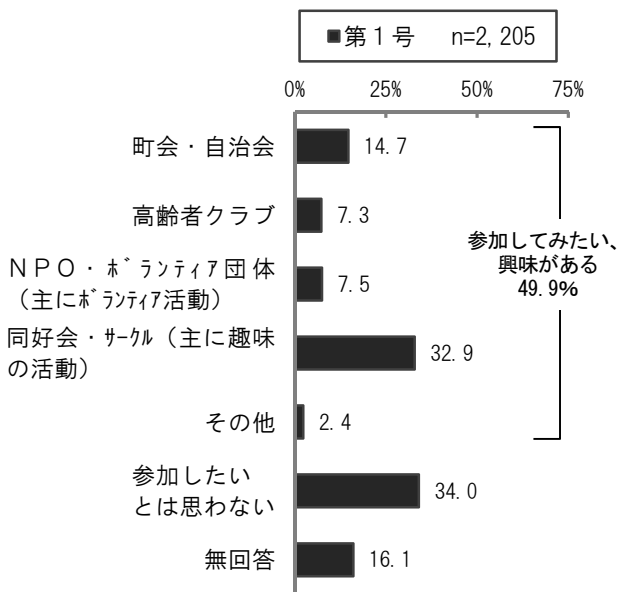
※「参加してみたい、興味がある」=100%－「特にない」－「無回答」

(2) - 1 参加してみたい、現在参加している活動団体やグループ〔第1号、ミドル・シニア〕

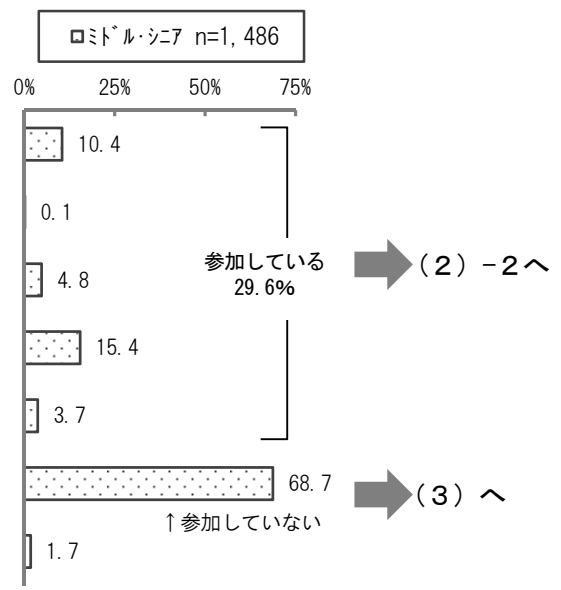
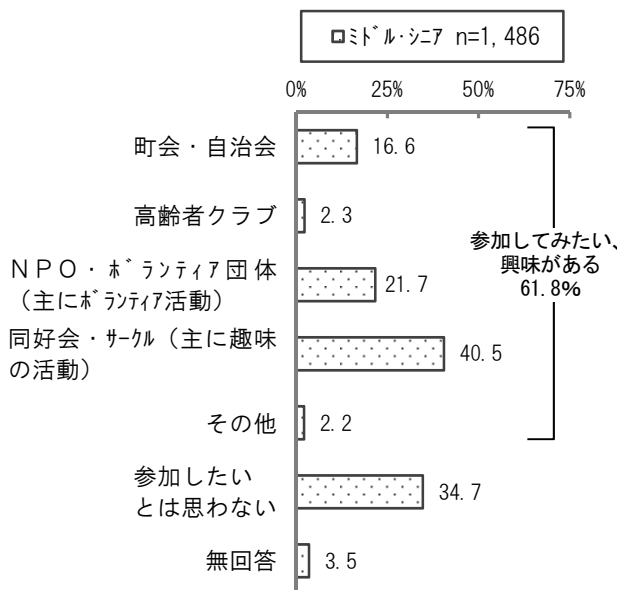
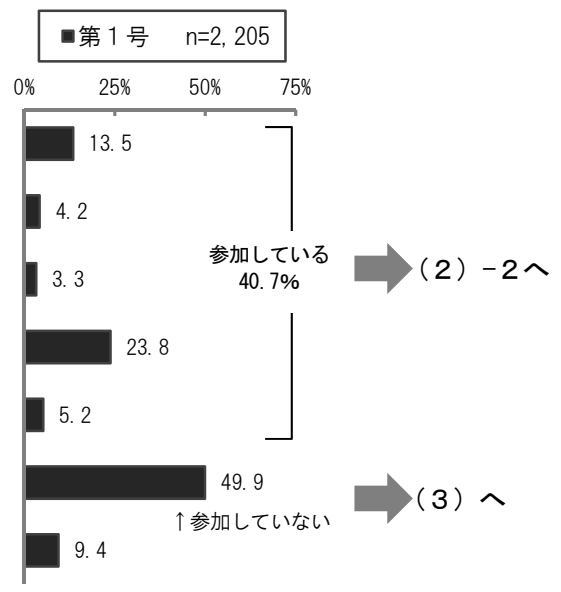
活動団体やグループに参加してみたい、興味がある割合は〔第1号〕が49.9%で、「同好会・サークル」が32.9%、「町会・自治会」が14.7%となっています。現在何らかの活動団体等に参加している割合は40.7%で、「同好会・サークル」が23.8%、「町会・自治会」が13.5%となっています。

〔ミドル・シニア〕の参加してみたい、興味がある割合は61.8%で、「同好会・サークル」が40.5%、「NPO・ボランティア団体」が21.7%となっています。現在何らかの活動団体等に参加している割合は29.6%で、「同好会・サークル」が15.4%、「町会・自治会」が10.4%となっています。

図表 2.30 参加してみたい活動団体等（複数回答）



図表 2.31 参加している活動団体等（複数回答）



※「参加してみたい、興味がある」
=100% - 「参加したいとは思わない」 - 「無回答」

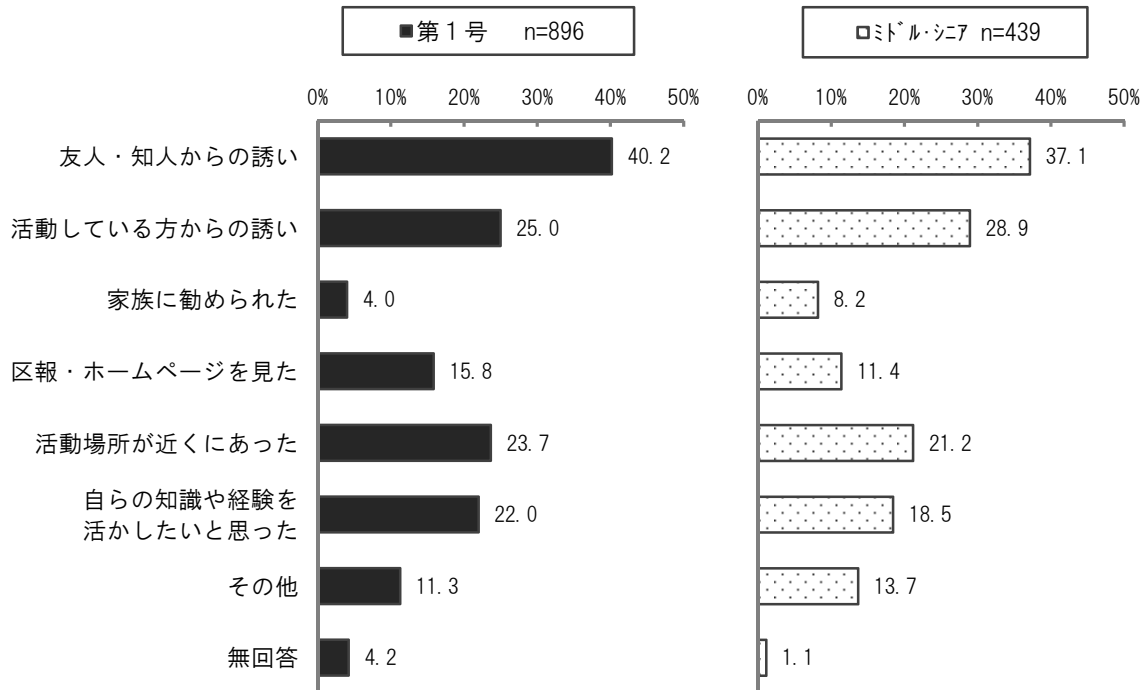
※「参加している」
=100% - 「参加していない」 - 「無回答」

(2) -2 活動を始めたきっかけ〔第1号、ミドル・シニア〕

〔第1号〕の活動を始めたきっかけは、「友人・知人からの誘い」が40.2%で最も高く、次いで「活動している方からの誘い」が25.0%、「活動場所が近くにあった」が23.7%となっています。

〔ミドル・シニア〕の活動を始めたきっかけは、「友人・知人からの誘い」が37.1%で最も高く、次いで「活動している方からの誘い」が28.9%、「活動場所が近くにあった」が21.2%となっています。

図表 2.32 活動を始めたきっかけ（複数回答）

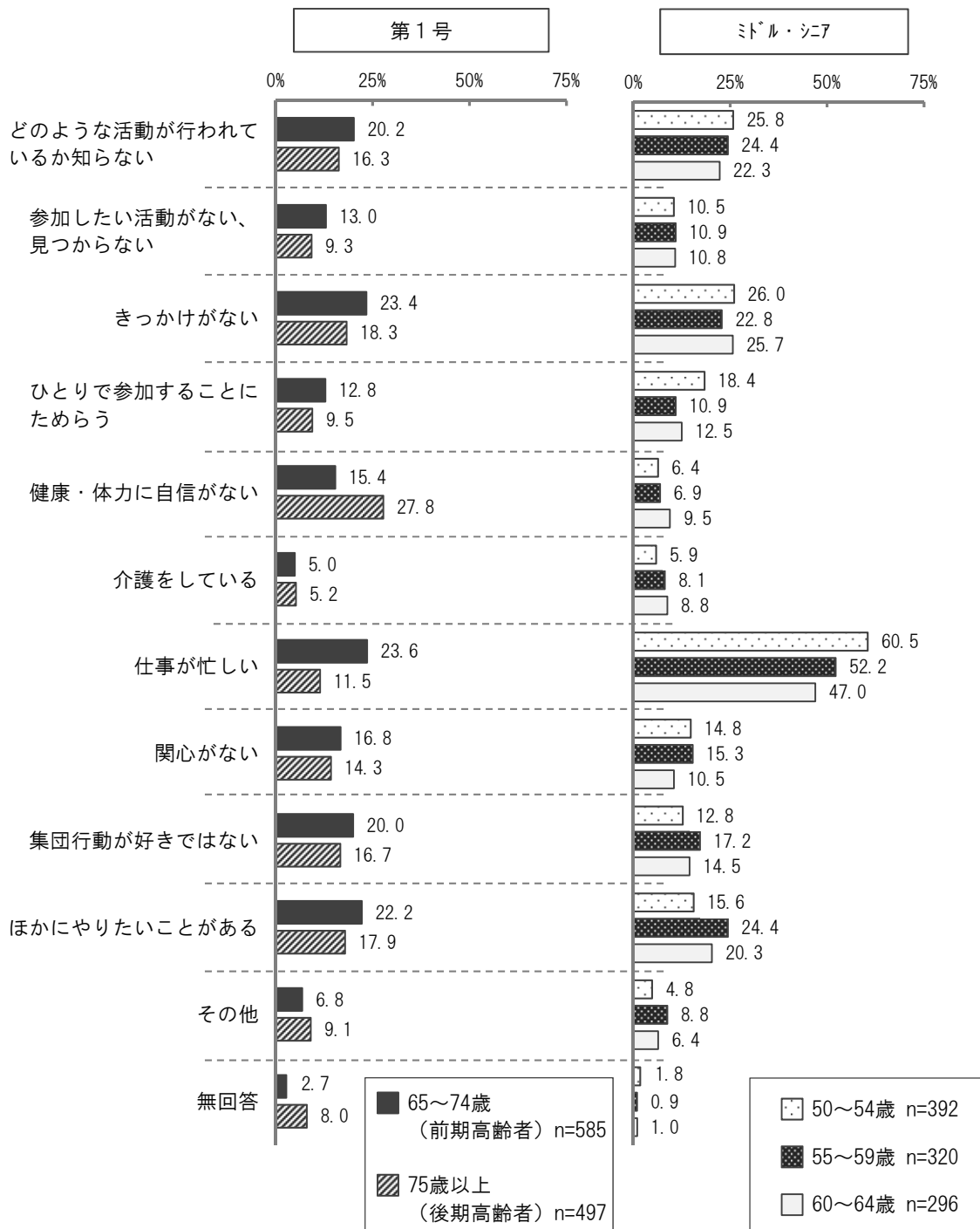


(3) 現在活動団体やグループに参加していない理由〔第1号、ミドル・シニア〕

活動団体等に参加していない理由は、〔第1号〕の「65～74歳（前期高齢者）」は、「仕事が忙しい」が23.6%で最も高く、次いで「きっかけがない」が23.4%、「ほかにやりたいことがある」が22.2%となっています。「75歳以上（後期高齢者）」は、「健康・体力に自信がない」が27.8%で最も高く、次いで「きっかけがない」が18.3%、「ほかにやりたいことがある」が17.9%となっています。

〔ミドル・シニア〕はいずれの年齢区分も「仕事が忙しい」が最も高く、「50～54歳」が60.5%、「55～59歳」が52.2%、「60～64歳」が47.0%となっています。「50～54歳」、「60～64歳」は、次いで「きっかけがない」が「50～54歳」が26.0%、「60～64歳」が25.7%となっています。「55～59歳」は、次いで「どのような活動が行われているか知らない」、「ほかにやりたいことがある」がともに24.4%となっています。

図表 2.33 活動団体等に参加していない理由（複数回答）



9 災害について

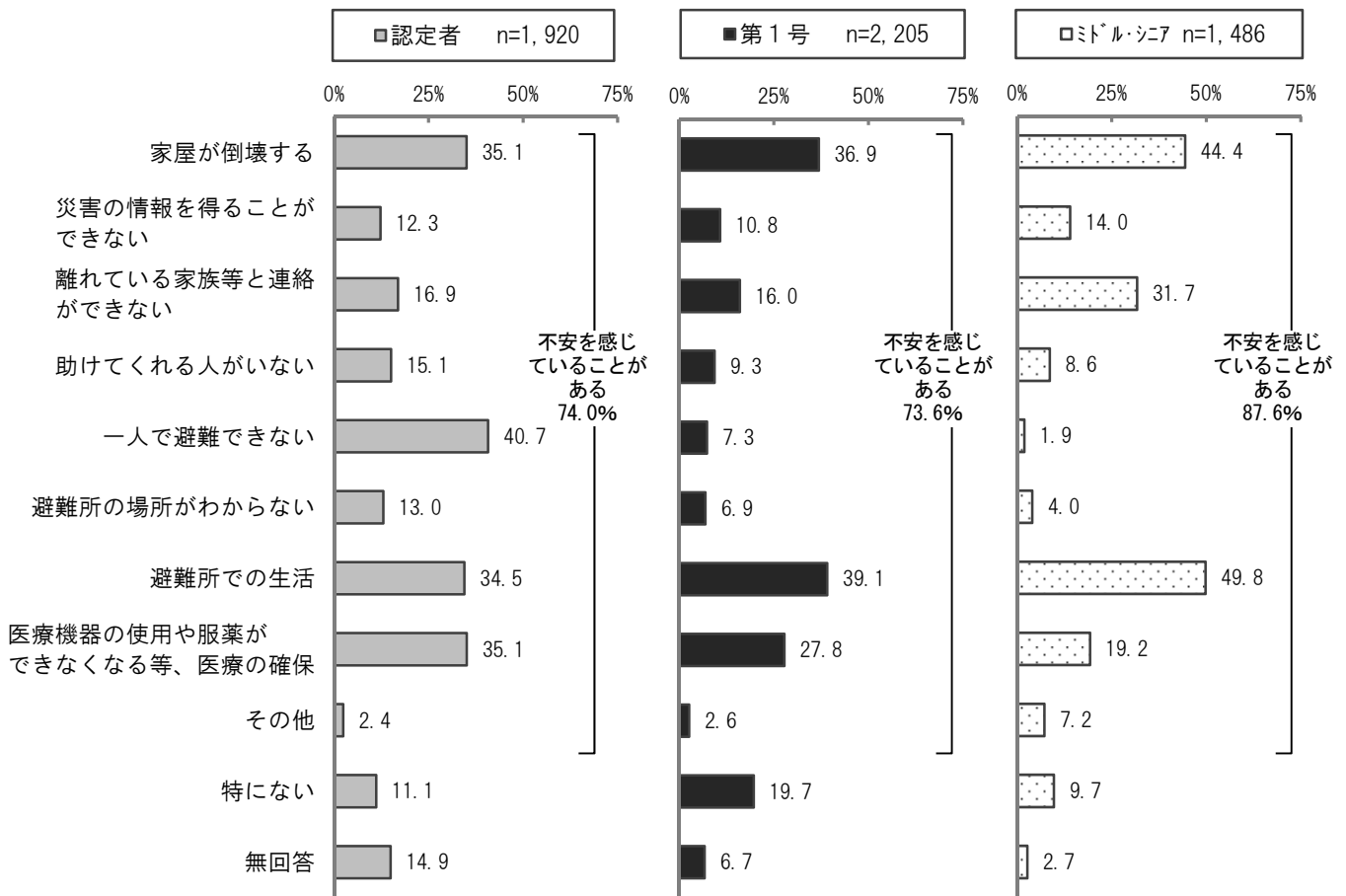
(1) 災害に関して不安に感じていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

災害に関して不安に感じていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が87.6%で最も高く、次いで〔認定者〕が74.0%、〔第1号〕が73.6%となっています。

〔認定者〕は、「一人で避難できない」が40.7%で最も高く、次いで「家屋が倒壊する」、「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」がともに35.1%、「避難所での生活」が34.5%となっています。

〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は、「避難所での生活」が最も高く、〔第1号〕が39.1%、〔ミドル・シニア〕が49.8%となっています。次いで「家屋が倒壊する」が〔第1号〕が36.9%、〔ミドル・シニア〕が44.4%となっています。3番目に高いのは、〔第1号〕は、「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」が27.8%、〔ミドル・シニア〕は、「離れている家族等と連絡ができない」が31.7%となっています。

図表 2.34 災害に関して不安に感じていること（複数回答）



※「不安を感じていることがある」=100%－「特になし」－「無回答」

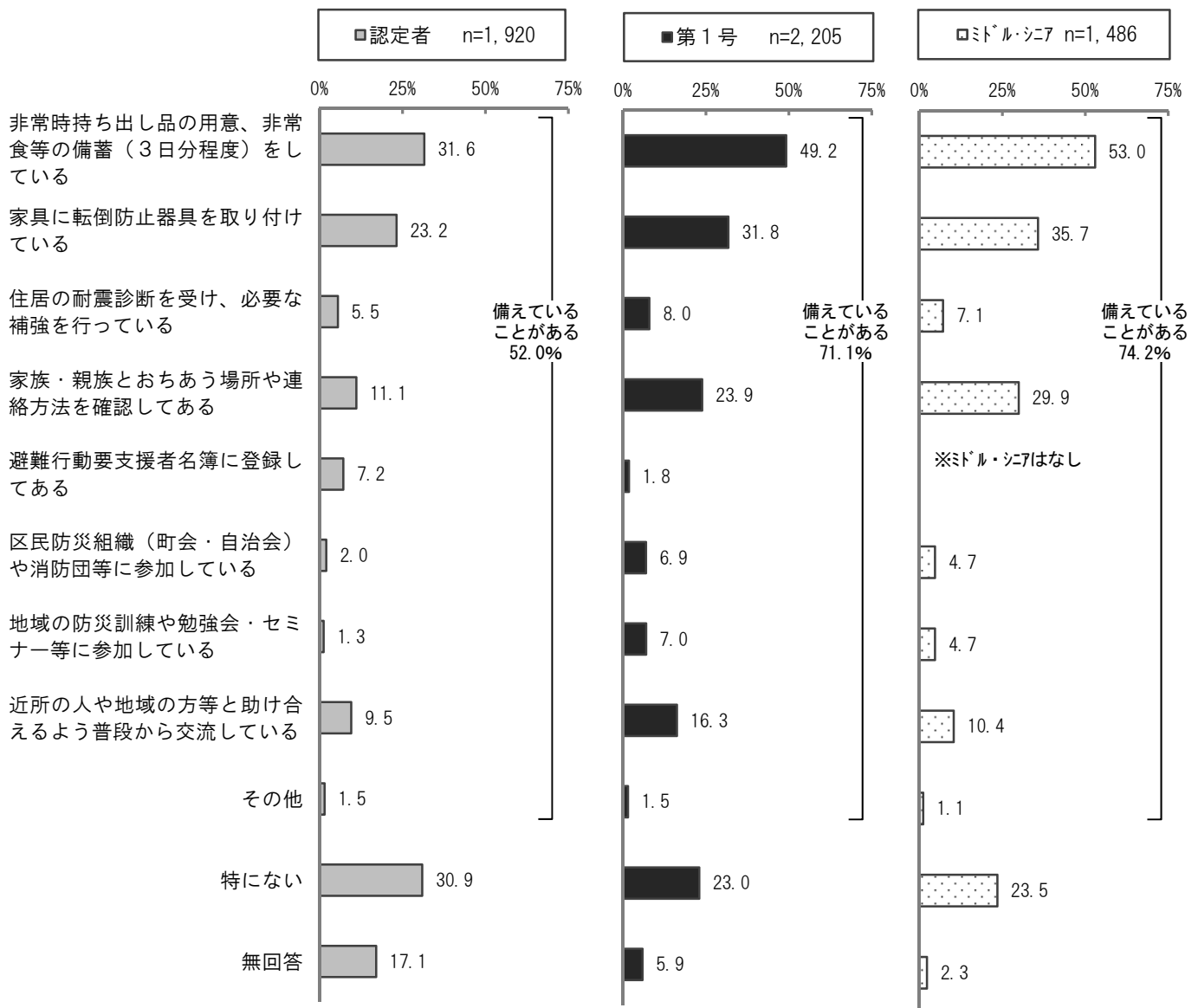
(2) 災害発生時に備えて行っていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

災害発生時に備えて行っていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が74.2%で最も高く、次いで〔第1号〕が71.1%、〔認定者〕が52.0%となっており、〔認定者〕は〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕より約20ポイント低くなっています。

いずれの対象者も「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が最も高く、〔認定者〕が31.6%、〔第1号〕が49.2%、〔ミドル・シニア〕が53.0%となっており、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」が高く、〔認定者〕が23.2%、〔第1号〕が31.8%、〔ミドル・シニア〕が35.7%となっています。

一方、「特にない」の割合は、〔認定者〕は30%を超え、〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は20%を超えています。

図表 2.35 災害発生時に備えて行っていること（複数回答）



※「備えていることがある」=100%－「特にない」－「無回答」

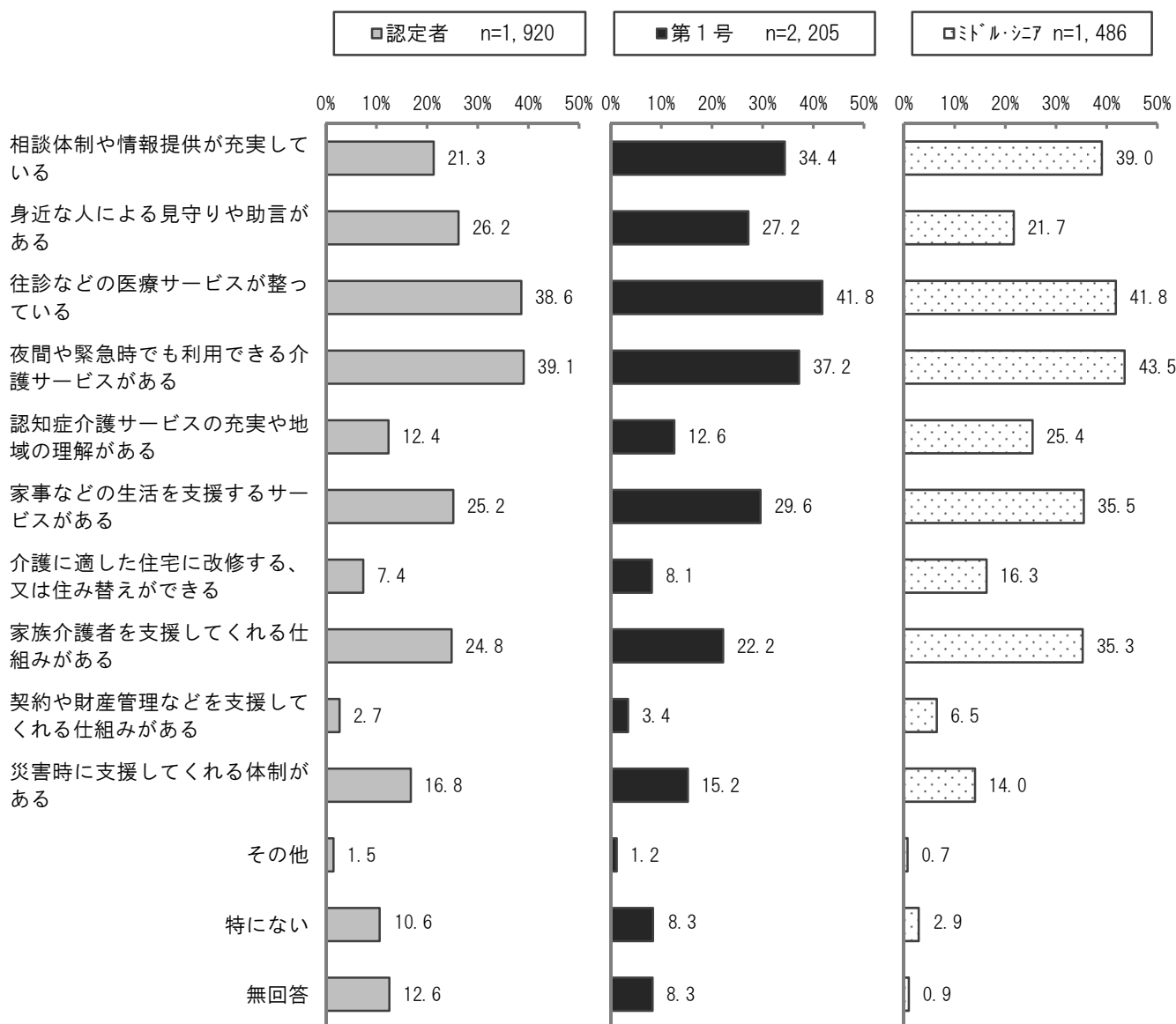
10 介護等について

(1) 地域で暮らし続けるために必要なこと〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと考えることは、いずれの対象者も「往診などの医療サービスが整っている」、「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」が上位2項目となっています。3番目に高いのは、〔認定者〕は「身近な人による見守りや助言がある」が26.2%となっています。〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は、「相談体制や情報提供が充実している」で、〔第1号〕が34.4%、〔ミドル・シニア〕が39.0%となっています。

また、〔ミドル・シニア〕は、「家族介護者を支援してくれる仕組みがある」、「認知症介護サービスの充実や地域の理解がある」が他の対象者より10ポイント以上高くなっています。

図表 2.36 地域で暮らし続けるために必要なこと（3つ以内複数回答）



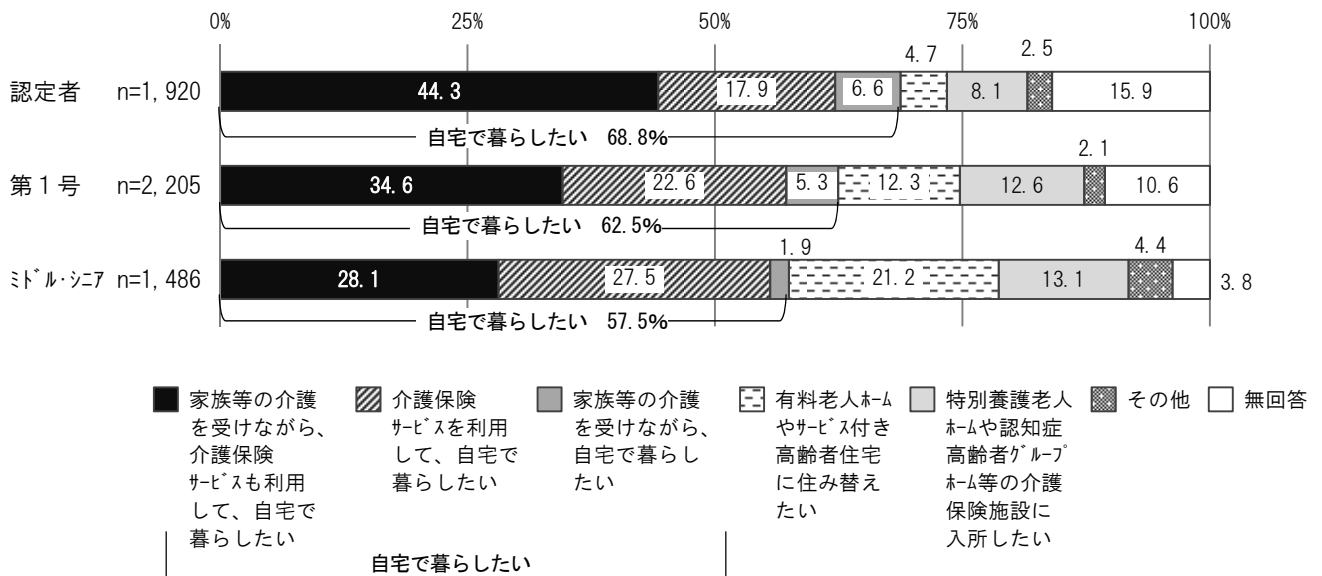
(2) 今後希望する暮らし方〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

今後希望する暮らし方は、「自宅で暮らしたい」割合は〔認定者〕が68.8%で最も高く、次いで〔第1号〕が62.5%、〔ミドル・シニア〕が57.5%となっています。

いずれの対象者も「家族等の介護を受けながら、介護保険サービスも利用して、自宅で暮らしたい」が最も高く、〔認定者〕が44.3%、〔第1号〕が34.6%、〔ミドル・シニア〕が28.1%となっており、次いで「介護保険サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が高く、〔認定者〕が17.9%、〔第1号〕が22.6%、〔ミドル・シニア〕が27.5%となっています。

また、〔ミドル・シニア〕は、「有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅に住み替えたい」が21.2%となっており、他の対象者より高くなっています。

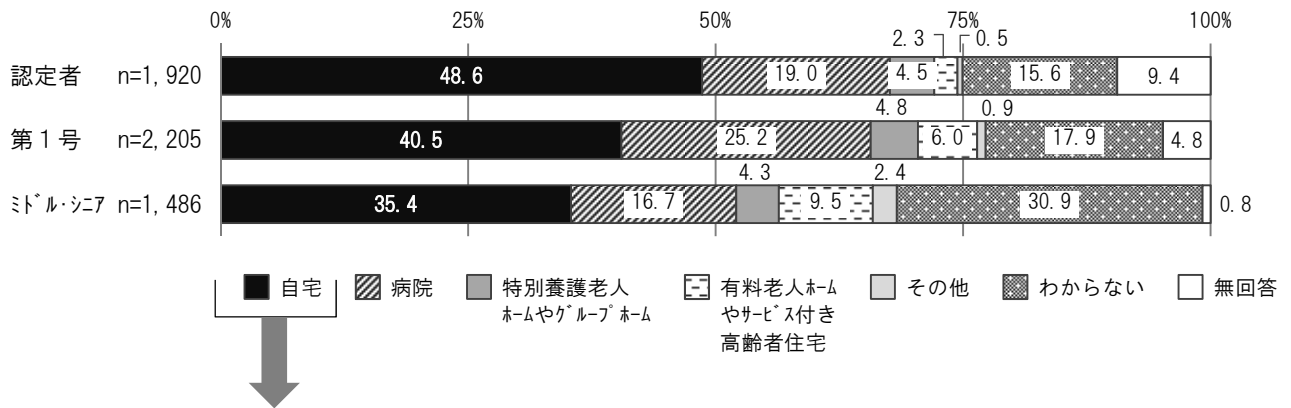
図表 2.37 今後希望する暮らし方



(3) - 1 終末期を迎える場所の希望〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

終末期を迎える場所の希望は、いずれの対象者も「自宅」が最も高く、〔認定者〕が48.6%、〔第1号〕が40.5%、〔ミドル・シニア〕が35.4%となっています。次いで「病院」が高く、〔認定者〕が19.0%、〔第1号〕が25.2%、〔ミドル・シニア〕が16.7%となっています。一方、〔ミドル・シニア〕は、「わからない」が30.9%で、他の対象者より高くなっています。

図表 2.38 終末期をどこで迎えたいか



(3) - 2 自宅で最期まで療養するために必要なこと〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

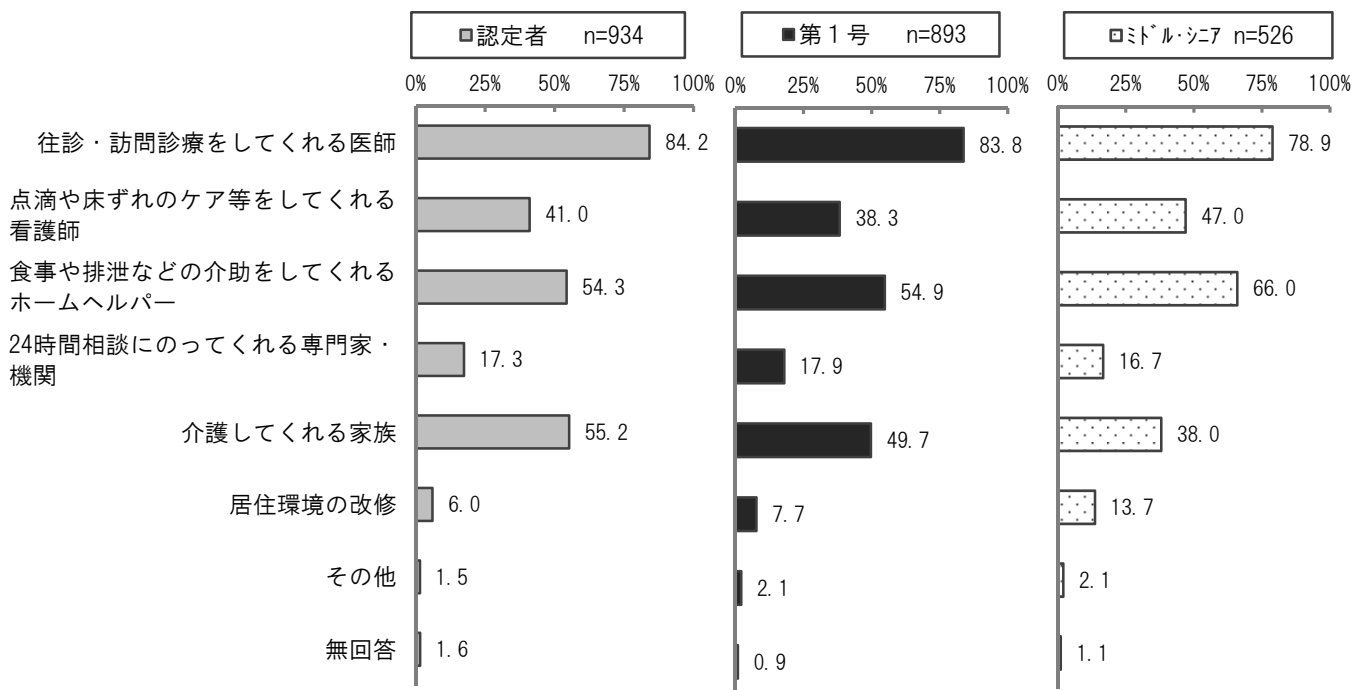
終末期を「自宅」で迎えたいと思う人が、自宅で最期まで療養するために必要だと思うことは、いずれの対象者も「往診・訪問診療をしてくれる医師」が最も高く、〔認定者〕が84.2%、〔第1号〕が83.8%、〔ミドル・シニア〕が78.9%となっています。

〔認定者〕は、次いで「介護してくれる家族」が55.2%、「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が54.3%となっています。

〔第1号〕は、次いで「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が54.9%、「介護してくれる家族」が49.7%となっています。

〔ミドル・シニア〕は、次いで「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が66.0%、「点滴や床ずれのケア等をしてくれる看護師」が47.0%となっています。

図表 2.39 自宅で最期まで療養するために必要なこと（3つ以内複数回答）



(4) 高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと

〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

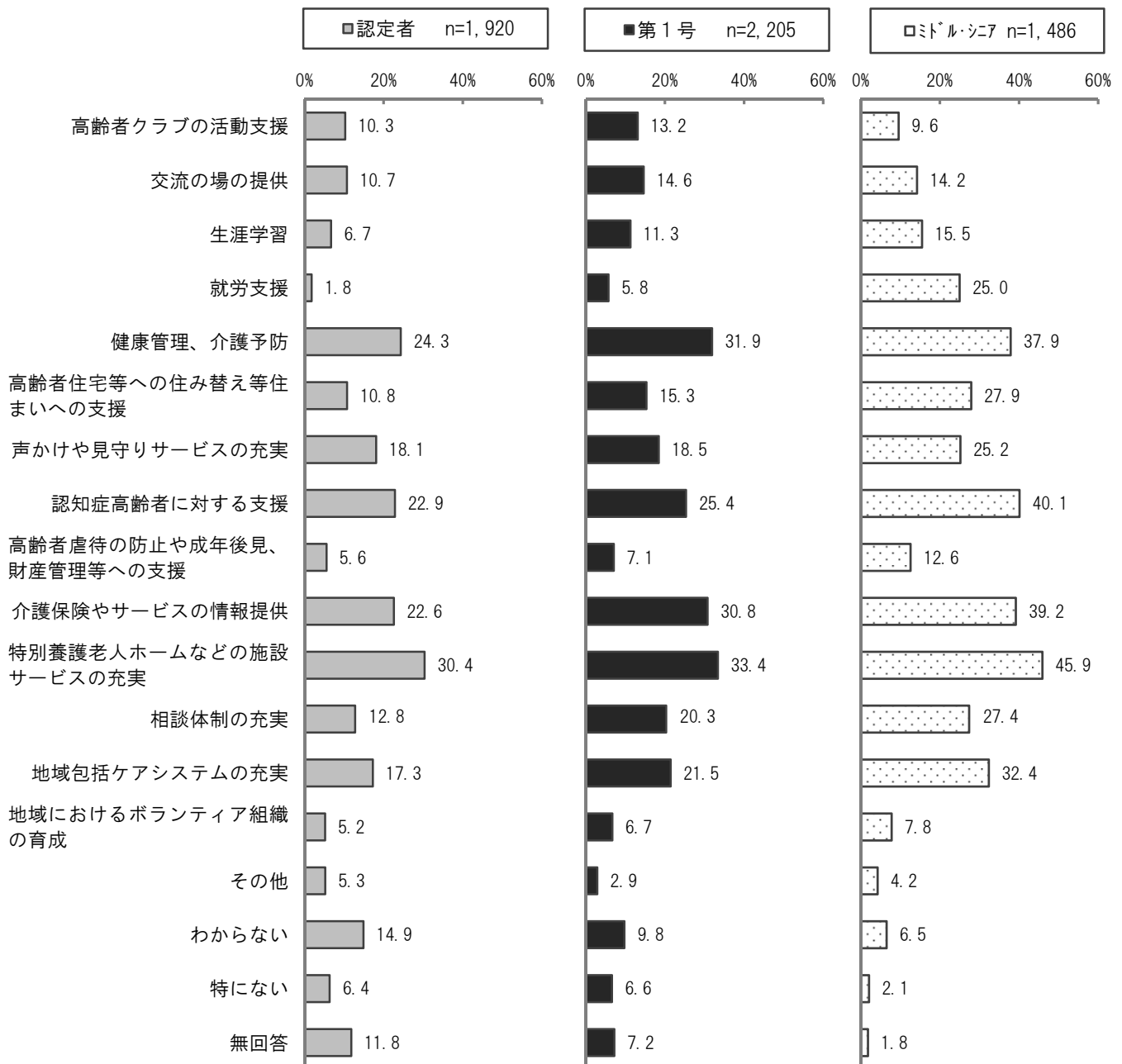
高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいことは、いずれの対象者も「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が最も高く、〔認定者〕が30.4%、〔第1号〕が33.4%、〔ミドル・シニア〕が45.9%となっています。

〔認定者〕は、次いで「健康管理、介護予防」が24.3%、「認知症高齢者に対する支援」が22.9%となっています。

〔第1号〕は、次いで「健康管理、介護予防」が31.9%、「介護保険やサービスの情報提供」が30.8%となっています。

〔ミドル・シニア〕は、次いで「認知症高齢者に対する支援」が40.1%、「介護保険やサービスの情報提供」が39.2%となっています。「健康管理、介護予防」、「地域包括ケアシステムの充実」も30%を超えています。

図表 2.40 高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと（複数回答）

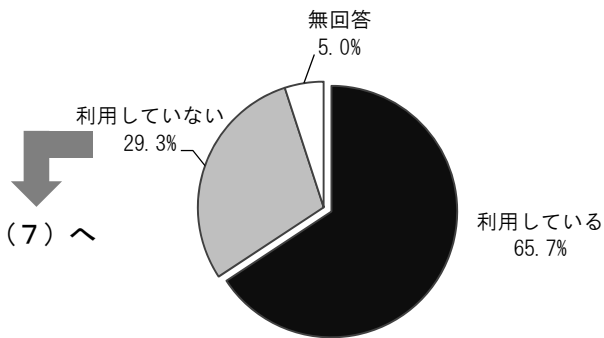


(5) 介護保険サービスの利用状況と介護保険料のあり方〔認定者〕

〔認定者〕の介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が65.7%、「利用していない」が29.3%となっています。
 「利用している」人（以下「〔認定者（サービス利用者）〕」）の介護保険サービスと介護保険料のあり方についての考えは、「保険料も介護保険サービスも今ぐらいが妥当である」が42.8%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が23.0%となっています。

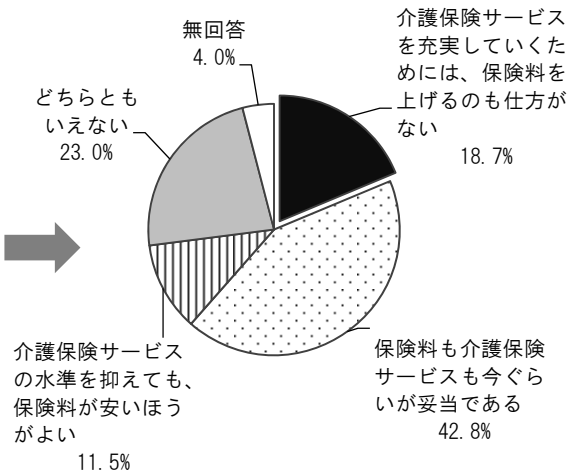
図表 2.41 介護保険サービスの利用状況

認定者 n=1,920



図表 2.42 介護保険料のあり方

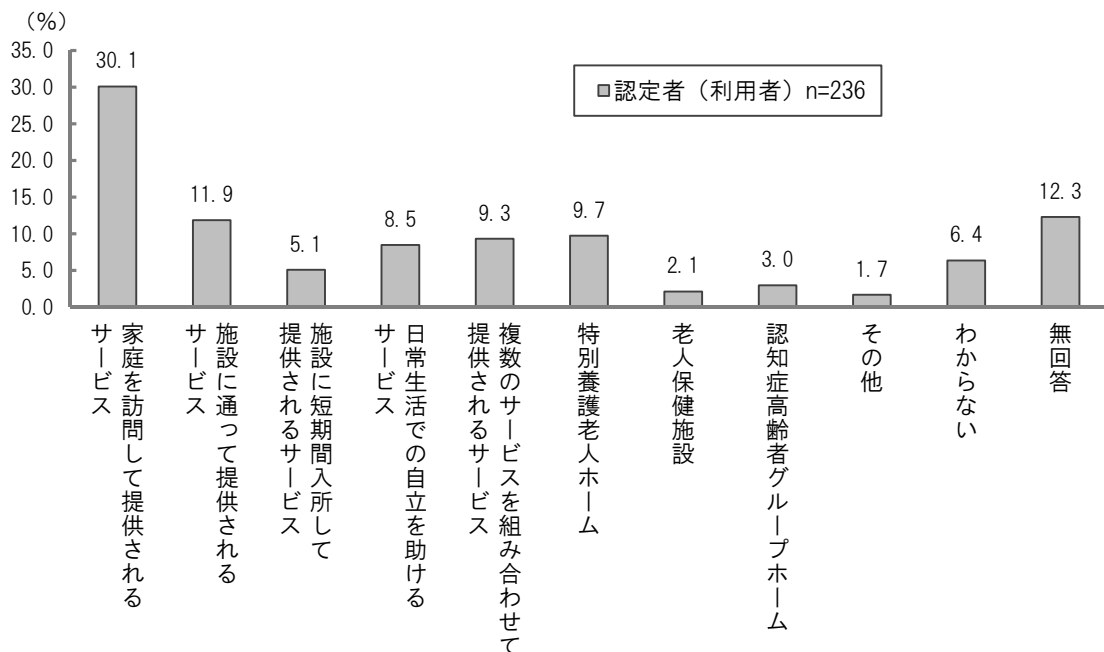
認定者（利用者） n=1,262



(6) 介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービス〔認定者（サービス利用者）〕

〔認定者（サービス利用者）〕のうち、「介護保険サービスを充実していくためには、保険料を上げるのも仕方がない」と答えた人で、介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービスは、「家庭を訪問して提供されるサービス」が30.1%で最も高く、次いで「施設に通って提供されるサービス」が11.9%、「特別養護老人ホーム」が9.7%となっています。

図表 2.43 介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービス



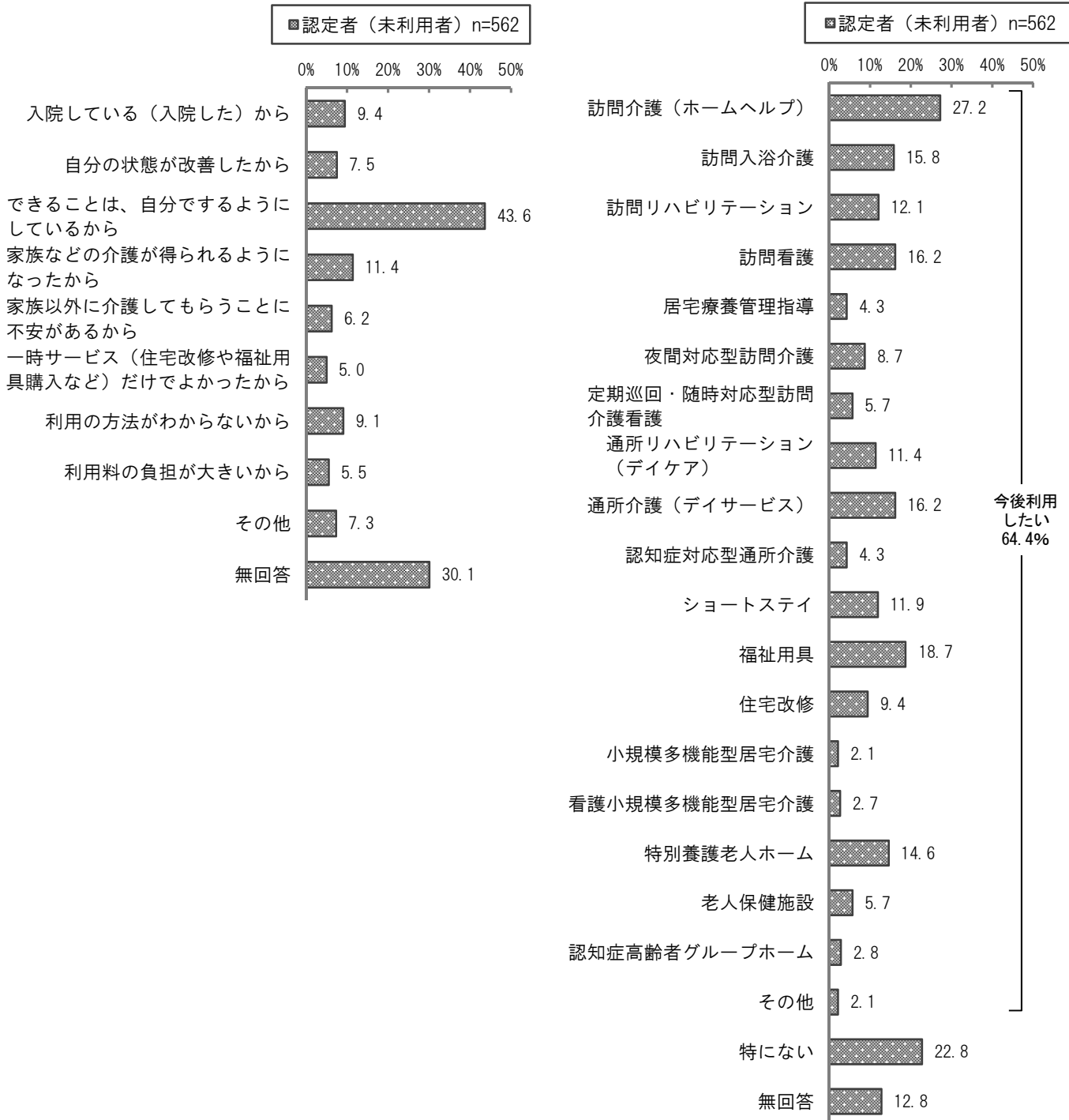
(7) 介護保険サービスを利用していない理由と今後利用したい介護保険サービス

〔認定者（サービス未利用者）〕

「利用していない」人（以下「〔認定者（サービス未利用者）〕」）の介護保険サービスを利用していない理由は、「できることは、自分でするようにしているから」が43.6%で最も高く、次いで「家族などの介護が得られるようになったから」が11.4%となっています。

今後利用したい介護保険サービスの割合は64.4%で、「訪問介護」が27.2%で最も高く、次いで「福祉用具」が18.7%、「訪問看護」、「通所介護」がともに16.2%となっています。

図表 2.44 介護保険サービスを利用していない理由（複数回答） 図表 2.45 今後利用したい介護保険サービス（複数回答）

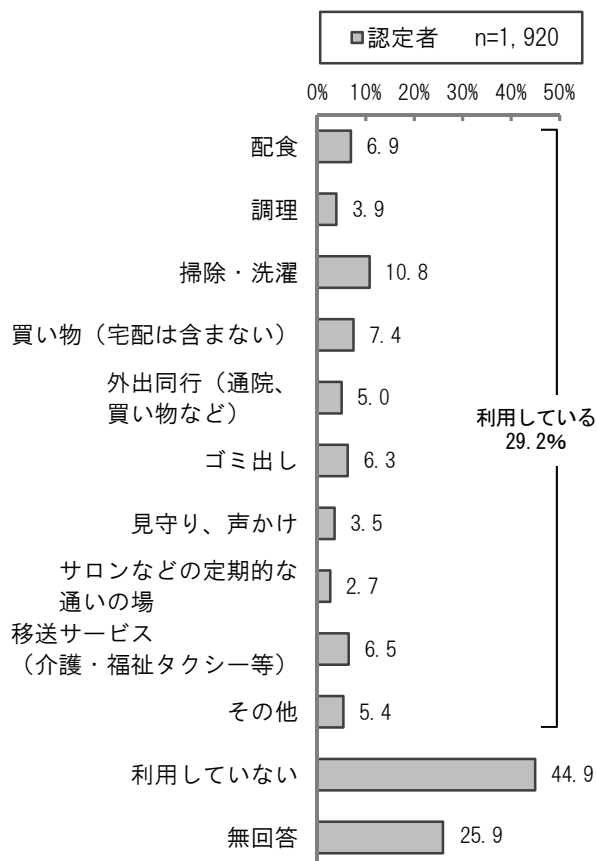


(8) 介護保険サービス以外で利用している支援等と在宅生活継続に必要な支援等

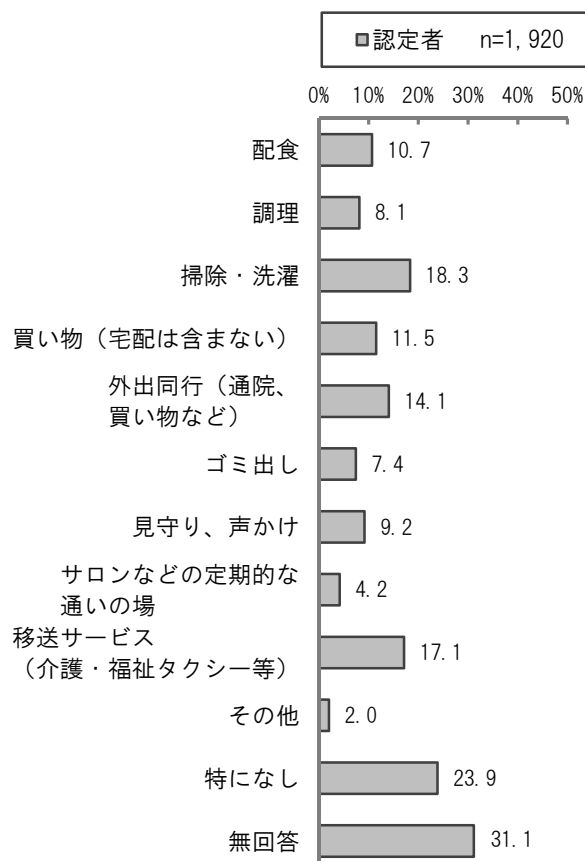
〔認定者〕

〔認定者〕の介護保険サービス以外の支援・サービスを利用している割合は29.2%で、「掃除・洗濯」が10.8%で最も高く、次いで「買い物」が7.4%、「配食」が6.9%となっています。
 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「掃除・洗濯」が18.3%で最も高く、次いで「移送サービス」が17.1%、「外出同行」が14.1%となっています。

図表 2.46 介護保険サービス以外で利用している支援等
(複数回答)



図表 2.47 在宅生活継続に必要な支援等
(3つ以内複数回答)



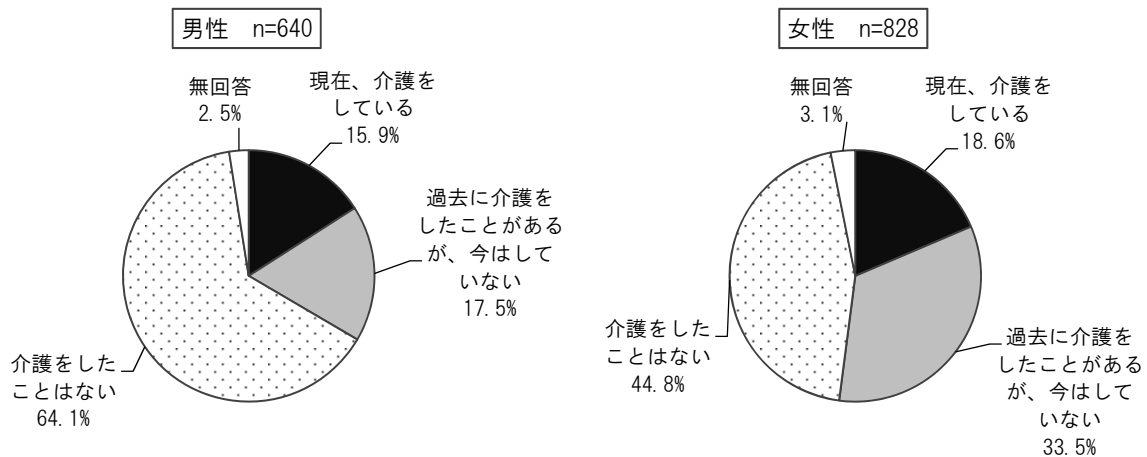
※「利用している」=100%－「利用していない」－「無回答」

11 介護者及び介護の状況について

(1) 介護経験の有無〔ミドル・シニア〕

〔ミドル・シニア〕の介護経験を性別にみると、「現在、介護をしている」割合は、「男性」が15.9%、「女性」が18.6%、「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」割合は、「男性」が17.5%、「女性」が33.5%となっており、介護経験のある割合は、「男性」が33.4%、「女性」が52.1%となっています。

図表 2.48 介護経験の有無/性別

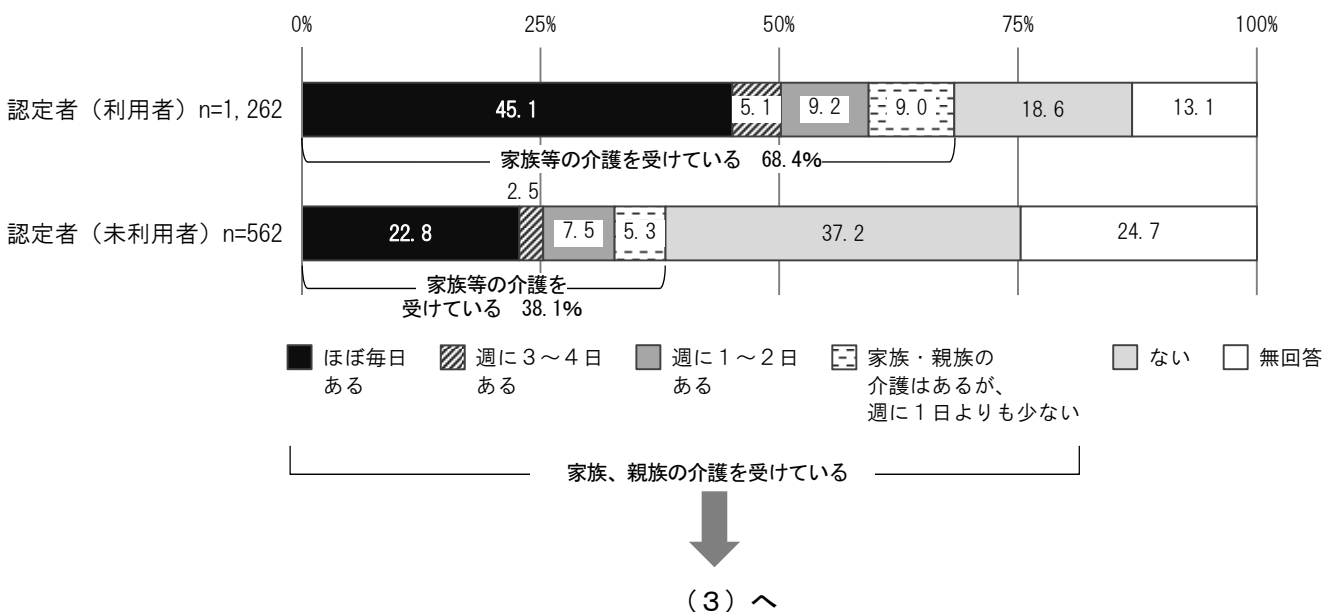


(2) 家族又は親族の介護の有無〔認定者〕

〔認定者〕の家族又は親族の介護を受けている割合を介護保険サービスの利用状況別にみると、〔認定者（サービス利用者）〕が68.4%、〔認定者（サービス未利用者）〕が38.1%となっており、〔認定者（サービス利用者）〕は、「ほぼ毎日ある」が45.1%となっています。

一方、家族又は親族の介護が「ない」割合は、〔認定者（サービス利用者）〕が18.6%であるのに比べて、〔認定者（サービス未利用者）〕が37.2%となっています。

図表 2.49 家族又は親族の介護を受けているか/介護保険サービス利用状況別

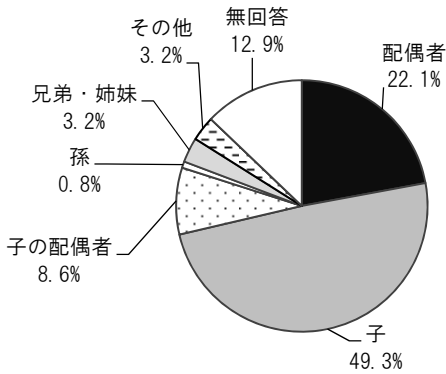


(3) 主な介護者の属性〔認定者〕

〔認定者〕の主な介護者は、「子」が49.3%で最も高く、次いで「配偶者」が22.1%となっています。性別は、「女性」が68.7%、「男性」が27.7%となっています。年齢は、「60代」が34.6%で最も高く、次いで「50代」が25.0%、「70代」が15.3%となっています。

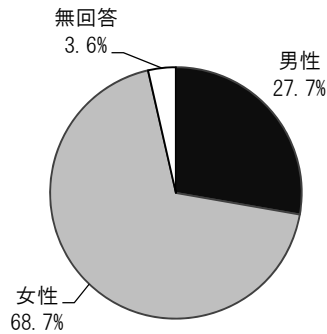
図表 2.50 主な介護者

認定者 n=1,096



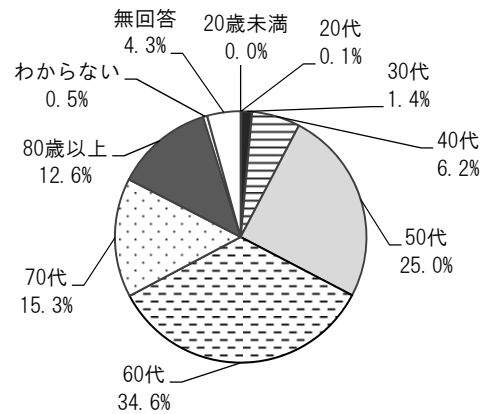
図表 2.51 主な介護者の性別

認定者 n=1,096



図表 2.52 主な介護者の年齢

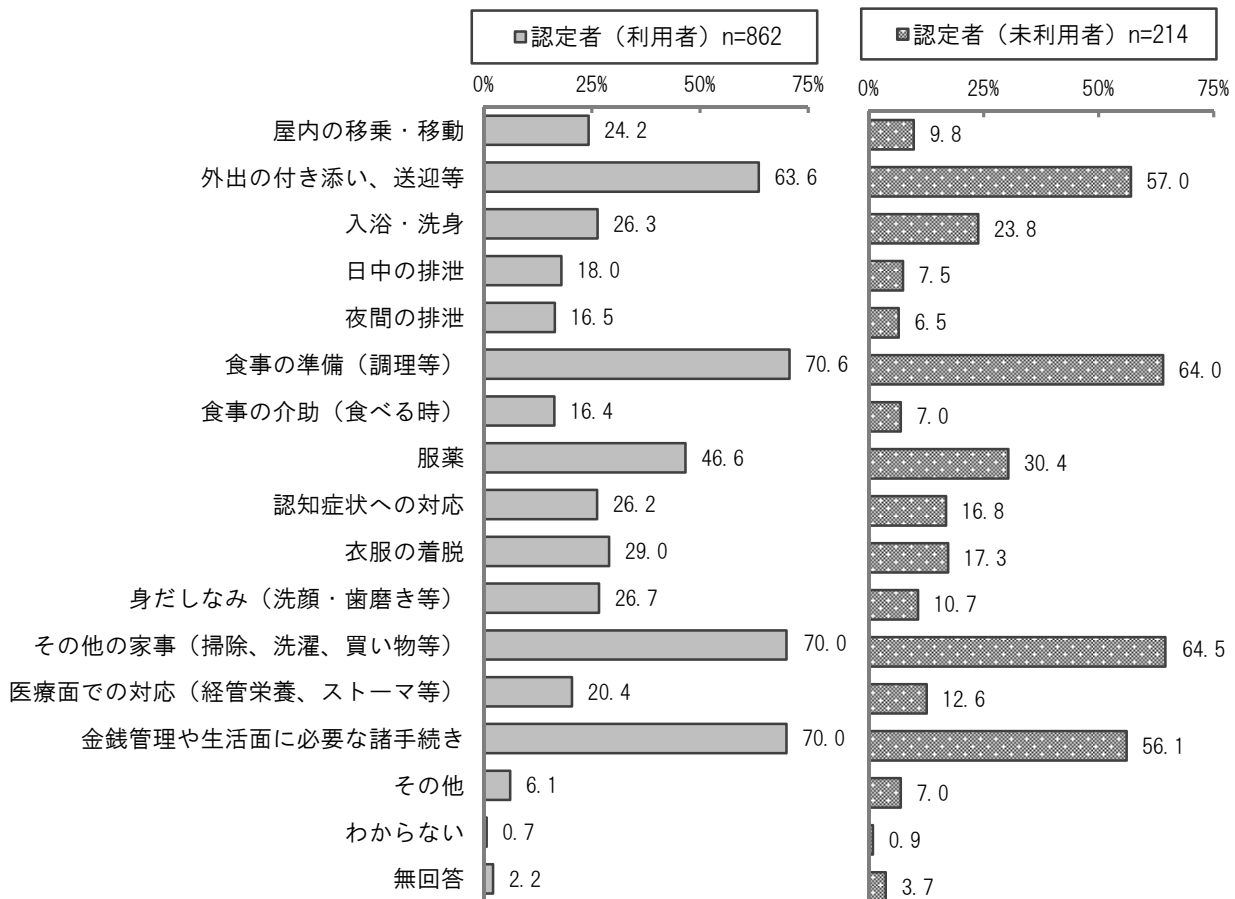
認定者 n=1,096



(4) 主な介護者が行っている介護等〔認定者〕

〔認定者〕の主な介護者が行っている介護等を介護保険サービスの利用状況別にみると、いずれも「食事の準備」、「その他の家事」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「外出の付き添い、送迎等」が上位となっています。〔認定者（サービス利用者）〕の「屋内の移乗・移動」、「日中の排泄」、「服薬」、「衣服の着脱」、「身だしなみ」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合は、〔認定者（サービス未利用者）〕より10ポイントを超えて高くなっています。

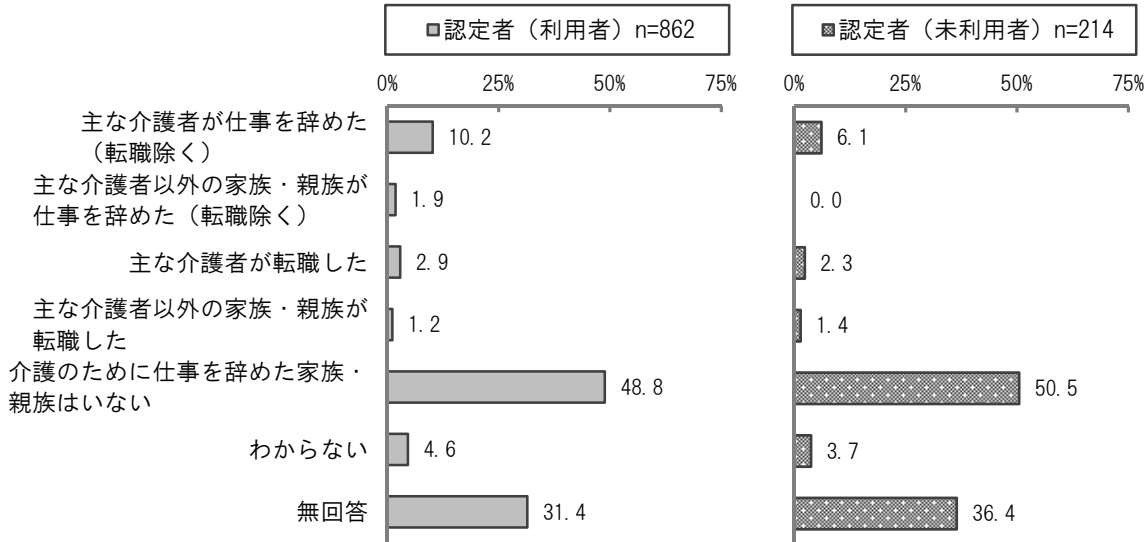
図表 2.53 主な介護者が行っている介護等（複数回答）/介護保険サービス利用状況別



(5) 家族や親族の中で介護のために過去に離職・転職した人の有無〔認定者〕

〔認定者〕の家族や親族の中で、介護のために過去に離職・転職した人の有無を介護保険サービスの利用状況別にみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は、「認定者（サービス利用者）」が48.8%、「認定者（サービス未利用者）」が50.5%となっています。

図表 2.54 家族や親族の介護離職の有無（複数回答）/介護保険サービス利用状況別



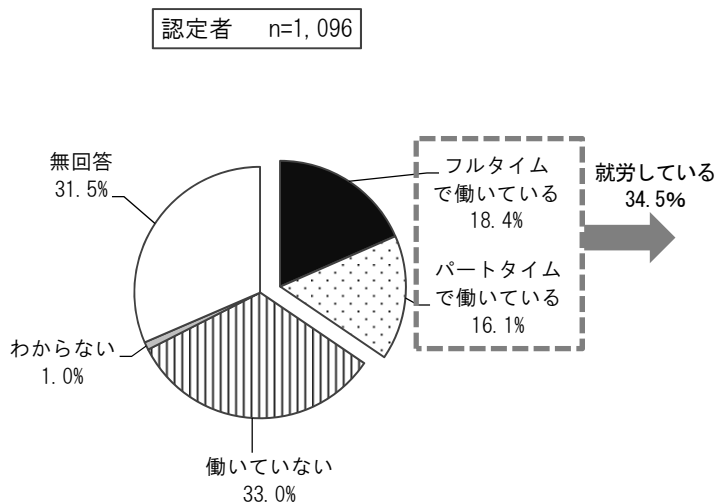
(6) 主な介護者の就労状況〔認定者〕

〔認定者〕の主な介護者の就労状況は、「働いていない」が33.0%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が18.4%、「パートタイムで働いている」が16.1%となっています。

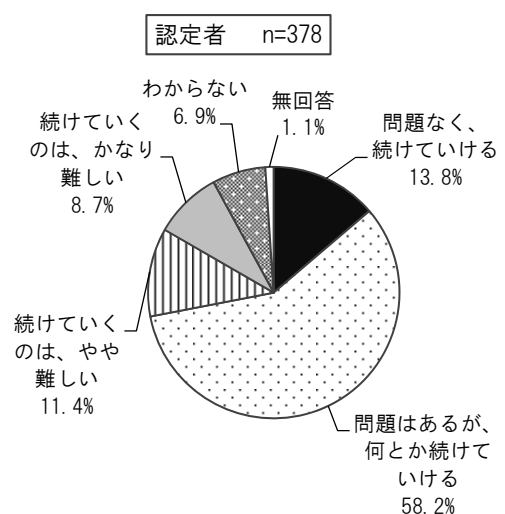
「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」介護者の就労継続可否意識は、「問題はありますが、何とか続けていける」が58.2%で最も高く、次いで「問題なく続けていける」が13.8%、「続けていくのは、やや難しい」が11.4%となっています。

「問題はありますが、何とか続けていける」、「問題なく続けていける」を合わせると72.0%となっています。

図表 2.55 主な介護者の就労状況



図表 2.56 介護者の就労継続可否意識



(7) 主な介護者が不安を感じる介護等〔認定者〕

〔認定者〕の主な介護者が不安を感じる介護等は、「認知症状への対応」が27.0%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が23.4%、「入浴・洗身」が20.4%となっています。

図表 2.57 主な介護者が不安を感じる介護等（3つ以内複数回答）

